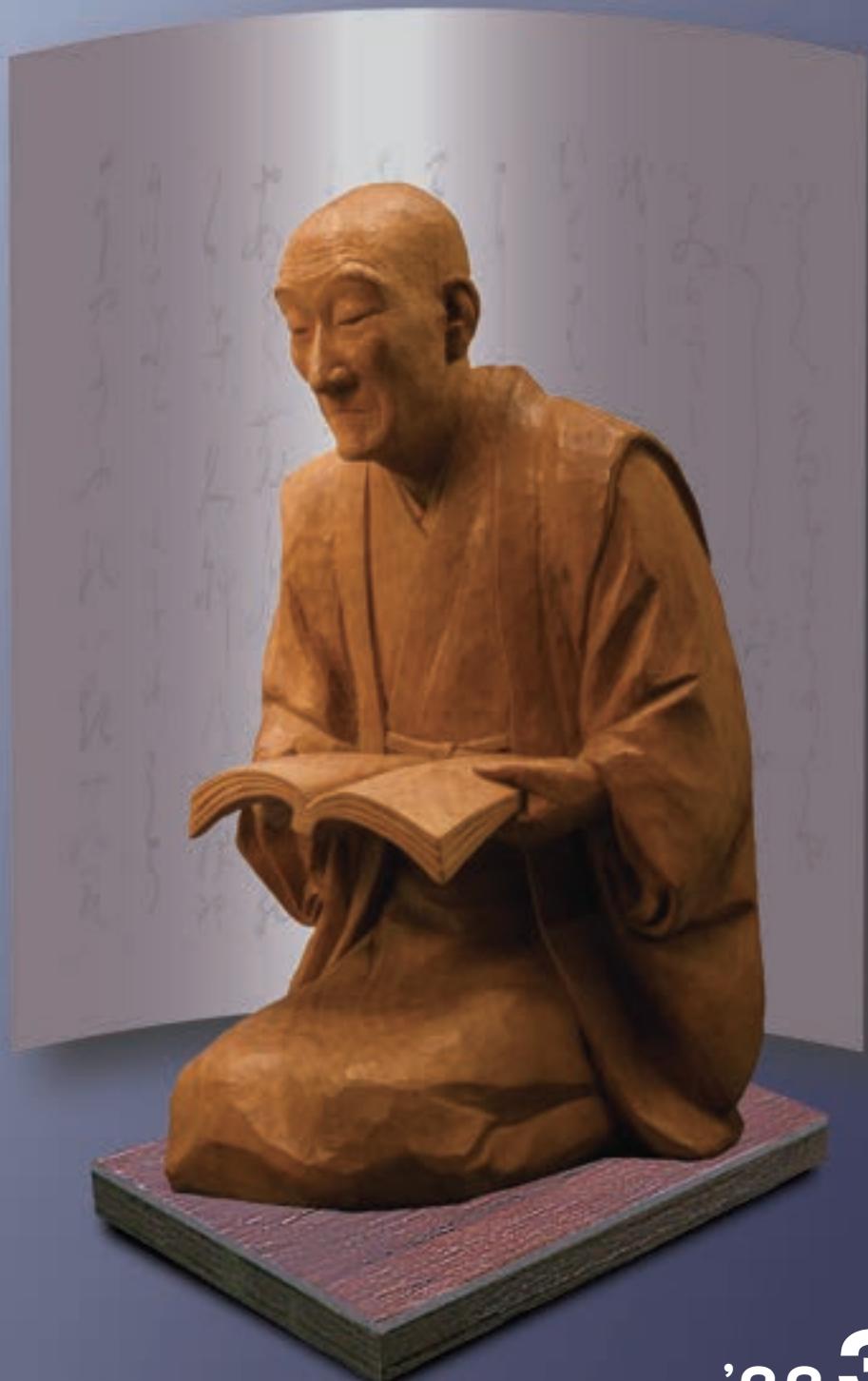


書
魁



書魁 SHOKAI ; A magazine for those wishing to master the art of handwriting '22 3

第62回

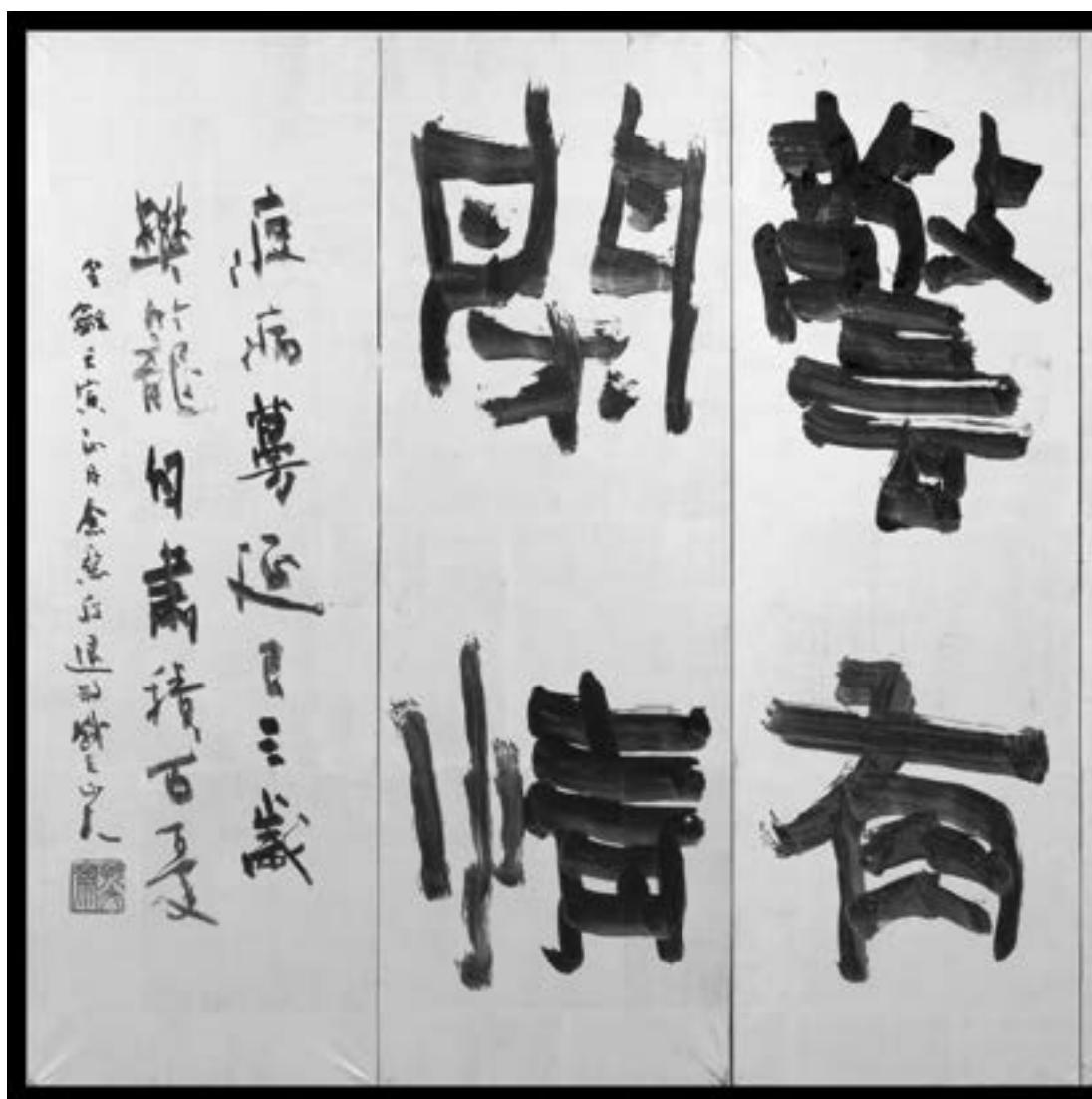
日本書作院展

於 国立新美術館



副理事長・大賞選考委員 吉澤鐵之

(表紙題字／吉澤
鐵之
写真／福田
仁先生
石)



(140×47×6曲)

疫病蔓延
（無頼ナ菌ヲ）
攘わんと欲す
警しめる可し
（緩ンダ氣持ヲ）
自詠
（ウチハライ）
無頼の菌
有閑の情
（ヒキシメヨ）

無為斎遊心

吉澤鐵石筆



暮春の天
和風袂に満つる

書作品と読経

吉澤鐵之

展覧会の鑑賞者が書の部屋に入るや否や、口々に次のように呟く。「書は解らないな」と。

そこで、この普遍的問題を（不敬となるかもしませんが）書作品を読経に置き換えて考えてみては如何だろう。

お坊さんの読経は、我々庶民には全くと言っていいほど理解できない。しかし、有難いことを説いてくれている・・・と思えば、内容が分からなくても自然と両手が合わさるもの。却て、ハッキリ分かるように唱えたらどうだろ。幾分か崇高さが減るのではないだろうか。書も同じで 分かりやす過ぎてしまったら、むしろ神秘的なものが無い、まるで看板屋さんが書いた調和体作品のようになってしまうのでは。

大事なことは、一般の鑑賞者には咄嗟に読めなくとも、それを書いている作家は作品の内容を熟知しており、聞かれたら説明が出来なければならないということだ。読経し、説法をするお坊さんは、それを承知しながら唱えているから有難いのではないだろうか。書家もそうでありたいし、それを日々目指すのが当然だと思う。

彼の名品、「蘭亭序」「祭姪文稿」「黃州寒食詩卷」「風信帖」などなど、容易に読める人は少ないだろう。しかし、おおよその趣旨を知りつつ、その一字一字の筆致に味わいを求める所に古典の楽しみがあると思う。書展でもそうありたい。

しかしそれにしても、近年の書作品はその文章ばかりか一文字ずつでも読めない作品が多い事も問題なのでは・・・。



近作刻字「平寛」



久 拼 野 鶴 如 雙 髢
遮 莫 隣 雞 下 五 更
久 拼 野 鶴 如 雙 髢
遮 莫 隣 雞 下 五 更
馬 羽 翳 堆 烏 雉 燕
勝 莫 隣 雞 下 五 更
馬 羽 翳 堆 烏 雉 燕
勝 莫 隣 雞 下 五 更
碑 碑 碑 碑 碑 碑 碑
賞 之 二 口

久 拼 野 鶴 如 雙 髢
遮 莫 隣 雞 下 五 更
馬 羽 翳 堆 烏 雉 燕
勝 莫 隣 雞 下 五 更
馬 羽 翳 堆 烏 雉 燕
勝 莫 隣 雞 下 五 更
碑 碑 碑 碑 碑 碑 碑
賞 之 二 口

条幅随意部参考

久 拼 野 鶴 如 雙 髢
遮 莫 隣 雞 下 五 更

杜甫

久しく野鶴の双髻の如くなるに拚す
遮莫れ隣雞の五更を下るを

- ◆あくまでも参考であって他の課題、臨書などを出品されても宜しいです。
用紙は小画箋半切をご使用下さい。

私は久しい以前から、両方の髪が鶴のように白くなつたのも、なる
にまかせたまま。隣りの雞の声が五更を過ぎたのを知らせるのも、
勝手にしろというものだ。

吉澤鐵之書



洗兵魚海雲迎陣
秣馬龍堆月照營

岑參

兵を魚海に洗えば雲陣を迎え
馬を龍堆に秣えれば月營を照らす

勝ちいくさの帰り道、魚海で兵器を洗えば、雲はわが隊列を迎えるかのよう
にわき出で、白龍堆で馬にまぐさを与えていれば、月はわが軍營を照らして
くれる。

*先月号の△行草書△に「吹」字がぬけて居りました。お詫び申し上げます。

洗兵魚海雲迎陣
秣馬龍堆月照營

岑參

洗兵魚海雲迎陣
秣馬龍堆月照營

張猛龍碑風

一般部段以上規定課題

(師範～初段) 三月三十日〆切

◆楷書以外のものは規定と認めません。



学び方

簡単そうな「水」字だが、行書体で右払いを短く省略して書く場合に、左右の余白の大きさを変化させて表情を変えた工夫が古典に見られる。王羲之の由来の変化だが、明代の王鐸が巧みに取り入れていたのが印象深い。

水 水

▼「深」字も隸書体に基づく異体字「渙」がある。右払いが頻出する今課題だが、古典の例を巧く組み合わせて変化させたい。

(以苦成美齋)

釈文

水深而魚聚

水深ければ魚聚る

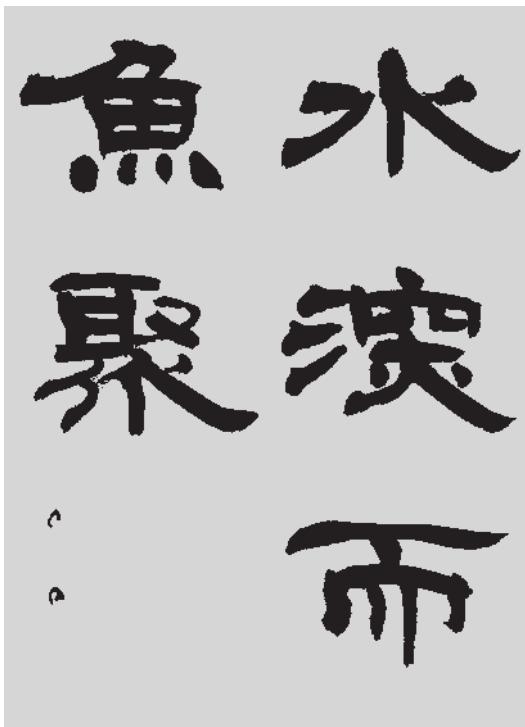
(水が深ければ、魚が集まる。有徳の人には人が集まる。) (『如不及齋文鈔』)

吉澤鐵之書

<隸書>

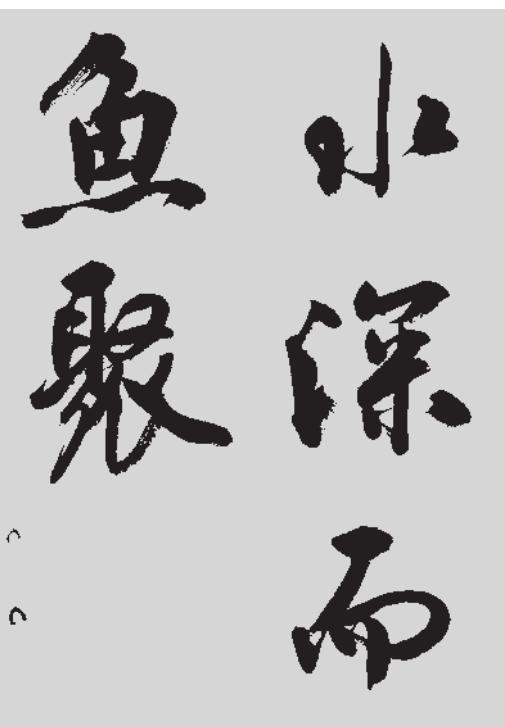
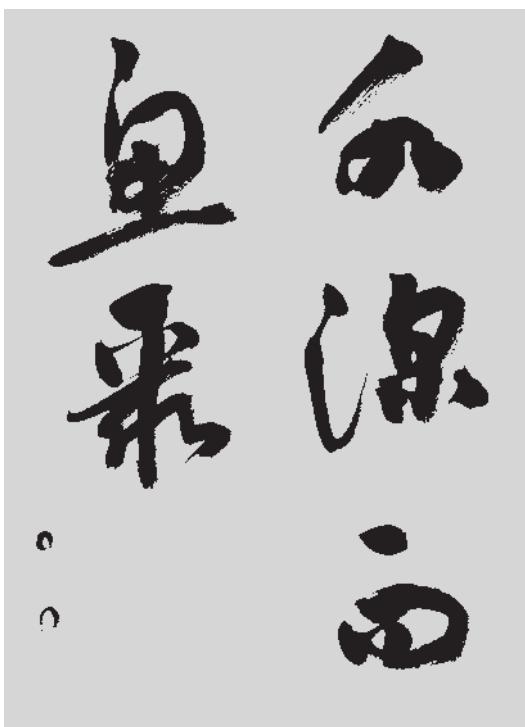
<篆書>

一般部段以上随意参考



<草書>

<行書>



※草書には草書体で落款をして下さい。

◆規定期・随意・条幅部・臨書部の段級は共通です。
◆随意部には一枚しか出品出来ません。
◆この他の課題、今月の臨書部課題以外の臨書などを出品されても宜しいです。

一般部級以下規定課題

(一級)新入) 三月三十日〆切

◆楷書に限ります。

学
び
方

儉
寡

則
求

釈文

儉則寡求

儉なれば則ち求め寡し

(儉約であれば、求める所が少ない。) (『醉古堂劍掃』)

吉澤 鐵之書

「寡」は、「カ」「寡ない」と読みます。また、「やもめ」とも読み、夫をなくした妻の意味もあるそうです。書いては、「宀(ウ冠)」と「夏」(夏の変形「寡」)から成り、下に「分」が付くのがポイント。▼「儉」は「僕」の旧字体で、屋根の中に「口」や「ノ」を収めるのがコツとなる。▼そして、意外に厄介なのは「則」。旁の「リ(リットウ)」は、細長く右側へ張り出す線がないため、文字全体の中心を掴みづらい。「貝」の第五画目を左へ張り出すように、中央部から書き出しましょう。(以苦成美齋)

「寡」は、「カ」「寡ない」と読みます。また、「やもめ」とも読み、夫をなくした妻の意味もあるそうです。書いては、「宀(ウ冠)」と「夏」(夏の変形「寡」)から成り、下に「分」が付くのがポイント。▼「儉」は「僕」の旧字体で、屋根の中に「口」や「ノ」を収めるのがコツとなる。▼そして、意外に厄介なのは「則」。旁の「リ(リットウ)」は、細長く右側へ張り出す線がないため、文字全体の中心を掴みづらい。「貝」の第五画目を左へ張り出すように、中央部から書き出しましょう。(以苦成美齋)



かな条幅参考

観文

うつくしく消えてかへらぬ星屑のとはの光を知りそめにけり（出典 島木赤彦）



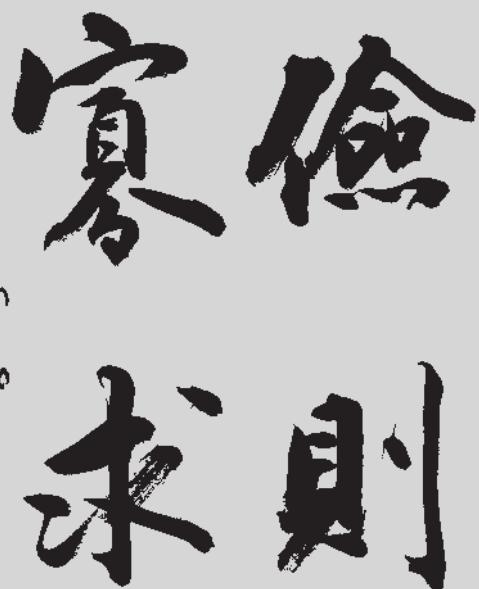
吉澤
劉石書

横書きの作品でも
出品券はこちらに

一般部級以下随意参考

△行
書▽

◆規定・随意・条幅部・臨書部の段級は共通です。
◆随意部には一枚しか出品出来ません。



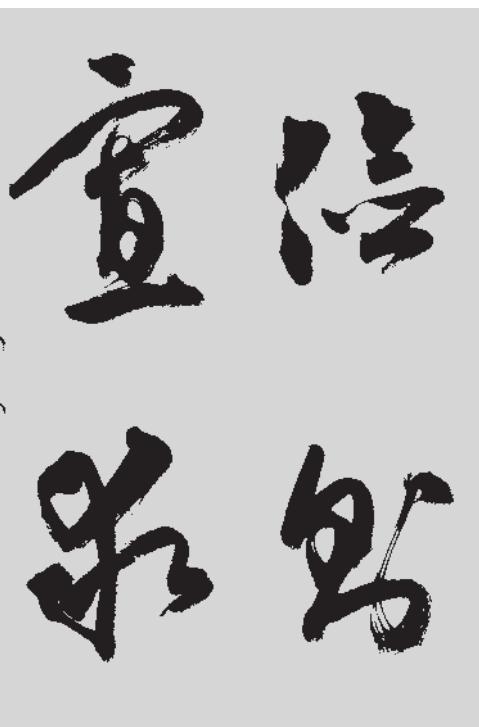
三月三十日〆切

◆この課題に限りません。
◆部別はかな規定部の段級によって、下の師・A・B・C部にわけて下さい。

C	B	A	師
部	部	部	範
一級	六段	七段	準師範
新入	初段		師範格

△草
書▽

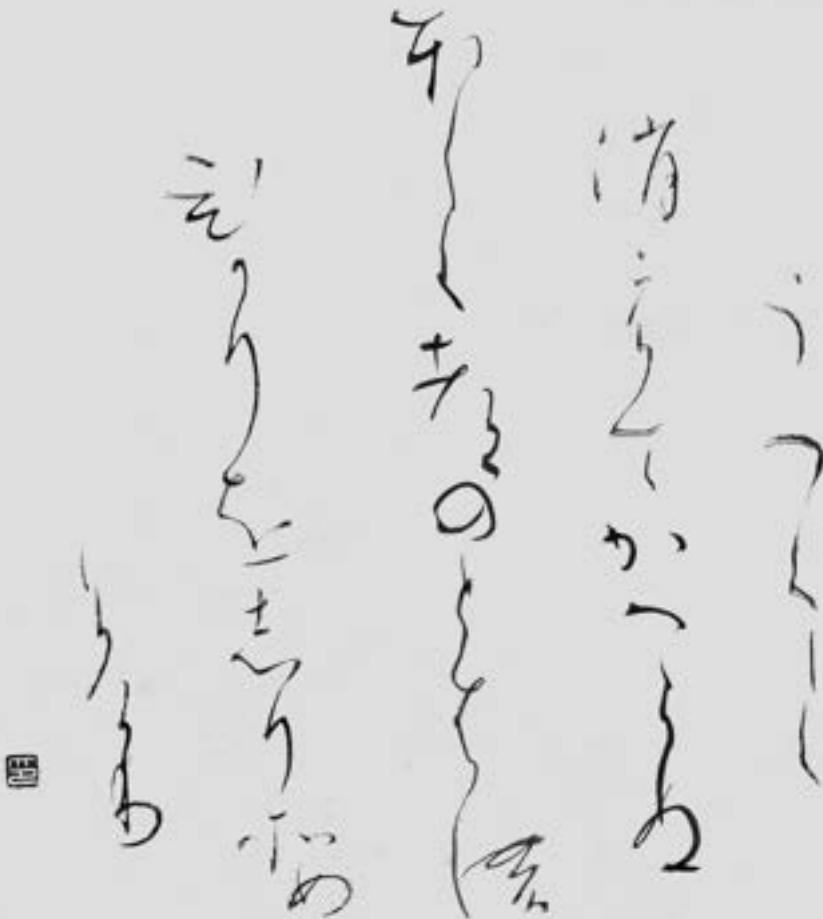
※草書には草書体で落款して下さい。



かな部規定課題

上級者むき 三月三十日〆切

- ◆書風、文字変換、構成自由。
- ◆上級者用、初級者用、いずれを出品されても差し支えありません。
- ◆料紙を小さく切って出品する場合は必ず半紙にはること。



四

萩文
うつくしく消えてかへらぬ星屑のとはの光を知りそめにけり（出典 島木赤彦）

本ノレ部
者 豊原司
志
所
尔介利

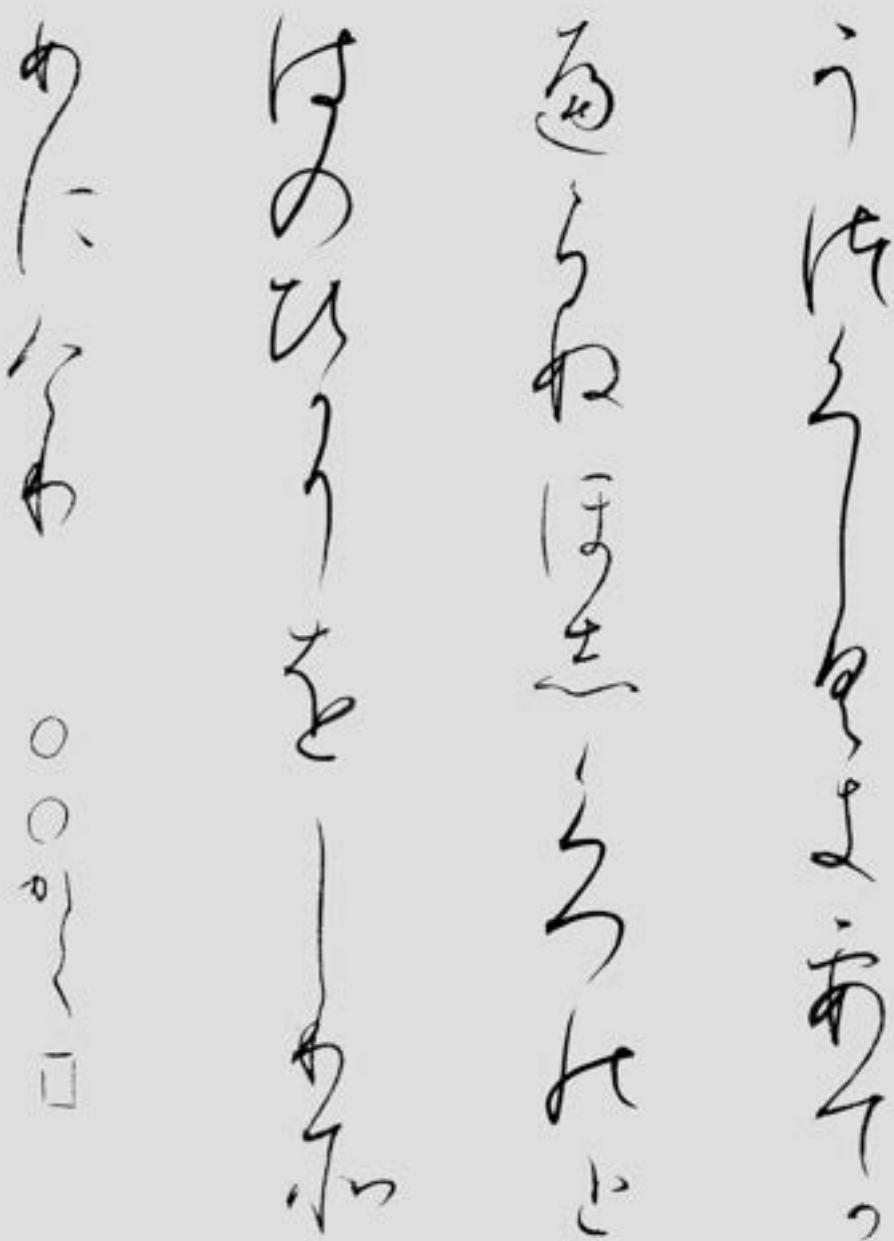
吉澤劉石書

思いが燃える時が出てくる
（せつかく一位だったのに・
・ようし・・）と、この

実はこの中国語学習、新年を迎えた時点で三九二日連続の学習になっていたのです。自分でもよく続けたねと褒めたいものと思いました。最近はコードレスのイヤホンを使い、テレビを見ながらスマホを片手に学習する時間を作っています。音が出ないので他人に迷惑をかけることはないのですが、この中国語学習だけに時間を費やすわけにはいかないので様々な工夫をするようになりました。それがイヤホンでの学習です。テレビを見ながらですから気が散漫になることはあると思いますが、点数が出て他の学習仲間がいかに学習しているか点数で見えるので闘志をかきたてられます。

うつくしく消えてかへらぬ星屑のとはの光を知りそめにけり（出典 島木赤彦）

中村 裕美子 書



◆次号課題【花咲けば待つには久しう方の雪踏みわけて我が出でて來し】（梅の花が咲くと、もう道に降り積もっている雪の融けるのが待ち遠しく、その雪を踏みわけてわたしは山から下りて來たことだ。）（鵠齋の歌）

◆上級者むぎはゆつたりとした書きぶりで暖かみを出そうと試みました。初級者むぎは「し」や「く」「り」が何度もでできますが、書き分けている点に着目して下さい。同じ音でも異なる変体仮名を使ったり、字形を微妙に変えるなどして、変化を持たせましょう。仮名条幅は文字の大小を意識しながらより大胆な部分を入れてみました。

*一七八書家 燃えよドラゴン 日々の鍛錬 飽きるまで

のも事実です。

臨書部師範格課題

*師範の方の臨書部はありません。
この課題を今月の随意部へは出品しない
で下さい。

釋文

白最々青峰謂此爲

臨書部準師範課題

釋文

攬取南溟不盡流

鐵之臨

白最々
青

峰謂此爲

白最、青峰謂此爲

白最見其松屋林九道家山
あ、乾更白最、青峰

◆法帖名 倪元璽行草書
◆筆者名 倪元璽(ゲイゲンロ・字は玉汝、鴻宝と号した)
◆年代 明・万曆二十一年(一五九三)~崇禎十七(一六四四)

攬取南溟不盡流

攬取南溟不盡流

◆法帖名 張瑞圖行草書
◆筆者名 張瑞圖(チョウズイト・字は長公、二水、白毫庵主などと号した)
◆年代 明・隆慶四年(一五七〇)~崇禎十二(一六三九)

白最見其松屋林中秋割將老
圃左多地攬取南溟

臨書部十段課題

※この課題を今月の随意部へは出品しないで下さい。

釋文
壁湖山雨晴照

壁湖山
雨晴照

雨晴照

壁湖山雨晴照

◆法帖名 蜀素帖（ショクソヅヨウ）
 ◆筆者名 米芾（エイフツ・字を元章・鹿門居士・襄陽漫士・海嶽外史と号した）
 ◆年代 宋・皇祐三一大觀元（一〇五二—一〇七・五七歳）

并使傳遺衣錦東南第

一州棘壁湖山雨晴照

臨書部九段課題

釋文
仁分醪之惠攻

仁分醪之惠攻

仁分醪之惠攻

仁分醪之惠攻

◆法帖名 曹全碑（ソウゼンピ）
 ◆筆者名 不詳
 ◆年代 後漢・中平二年（一八五年）

併織竟君興肺而討
有爽臘之仁分

『書魁』一、二、三月号臨書課題を参考の上、昇格試験臨書条幅の参考として下さい。勿論、別の場所の臨書でも結構です。

鐵之臨

臨書部八段課題

※この課題を今月の随意部へは出品
しないで下さい。

〔釈文〕
夫季明之靈

夫季明之靈

◆法帖名 祭姪文稿
◆筆者名 顏真卿(ガンシンケイ)・字は清臣、顏魯公と称せられる
◆年代 唐・乾元元年(七五八)

階的庶弟季子之靈
贊善大夫季明之靈
贊善大夫季明之靈

臨書部七段課題

〔釈文〕
書并州刺史祖

書并州刺史祖

◆法帖名 張黒女墓誌銘(チヨウコクジヨボシメイ)・張玄墓誌銘とも呼ばれる
◆筆者名 不詳
◆年代 北魏・普元年(五三二)

置水故以清潔遠祖
和吏部尚書并
并

臨書部六段課題

※この課題を今月の随意部へは出品
しないで下さい。

釋文 機王粲銷憂日

機王粲銷憂日

◆法帖名 李嶠百詠断簡（リキヨウヒヤクエイダンカン）
◆筆者名 伝嵯峨天皇
◆年代 平安（七八六—八四一）

歎早物僅因持福也空
猶想文機王粲銷憂

臨書部五段課題

釋文 鐸魏靈藏河東

鎌魏靈藏河東

◆法帖名 魏靈藏薛法紹造像記（ギレイゾウセツボウショウヅウキ）
◆筆者名 不詳
◆年代 北魏

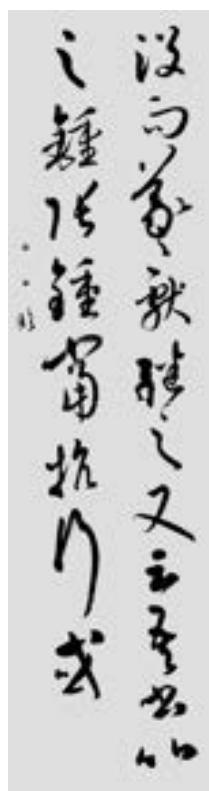
像爰暨下代茲容廟
佐鉅鎌魏靈藏

『書魁』一、二、三月号臨書課題を参考の上、昇格試験臨書条幅の参考として下さい。勿論、別の場所の臨書でも結構です。

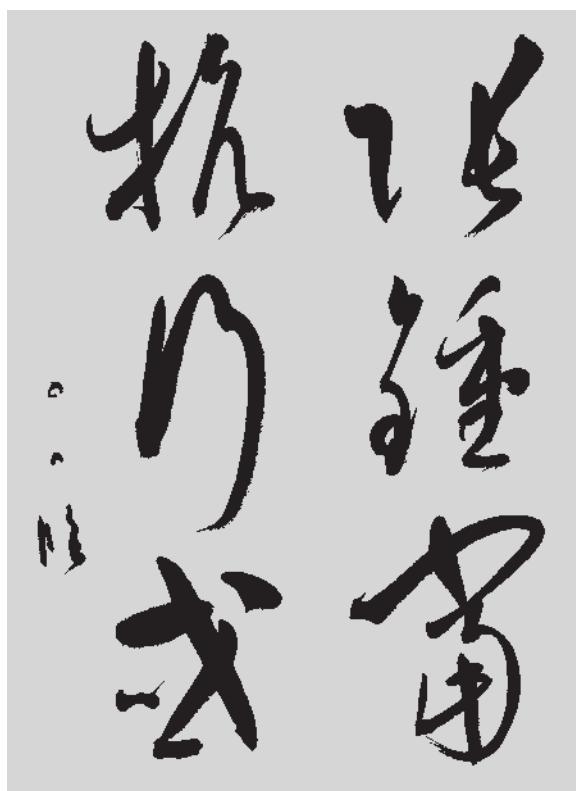
※落款も草書体で書いて下さい。
※この課題を今月の随意部へは出品しないで下さい。

臨書部四段課題

張鍾當抗行或
穀文



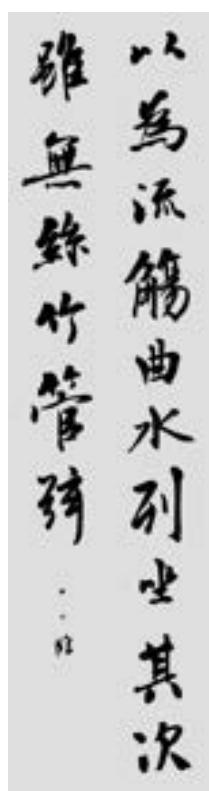
◆法帖名　書譜（ショフ）
◆筆者名　孫過庭（ソンカティ・字は虔礼）
◆年代　唐・貞觀二十二（六四八）～嗣聖二十（七〇三）以前



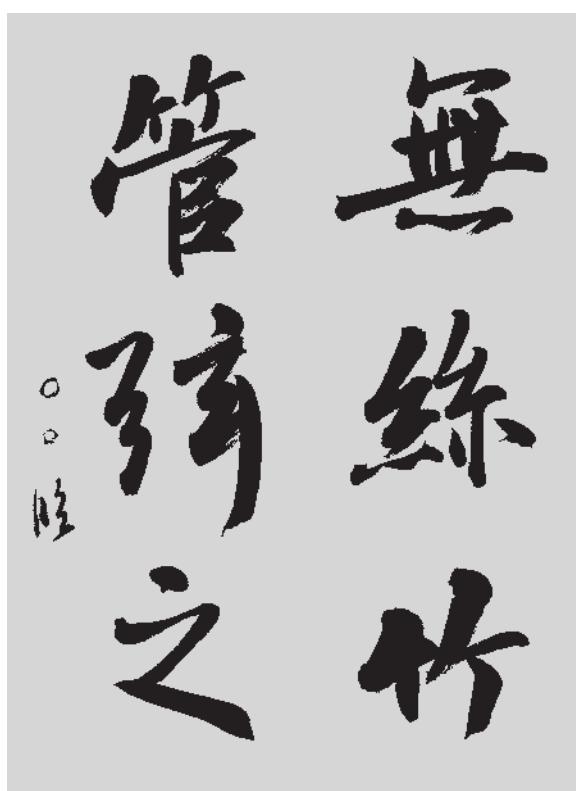
臨書部三段課題

無絲竹管弦之
穀文

太雅臨



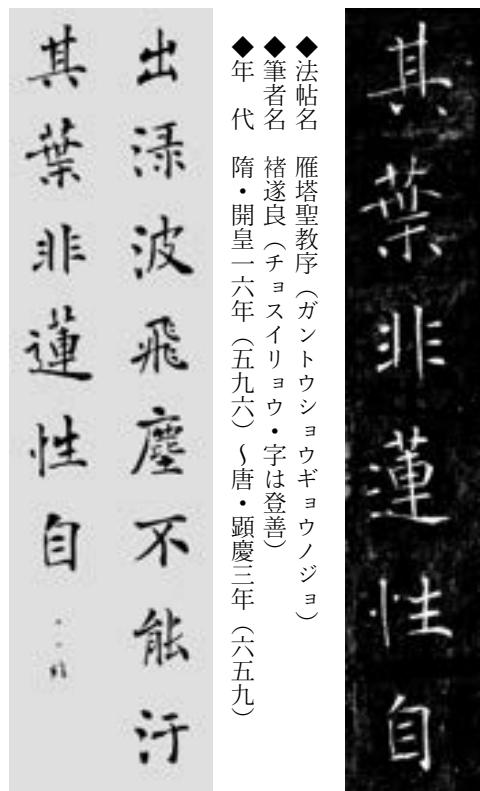
◆法帖名　蘭亭序（ランテイジョ）
◆筆者名　王羲之（オウギシ・字は逸少、王右軍と称せられる）
◆年代　東晋・永和九年（三五三）



臨書部一段課題

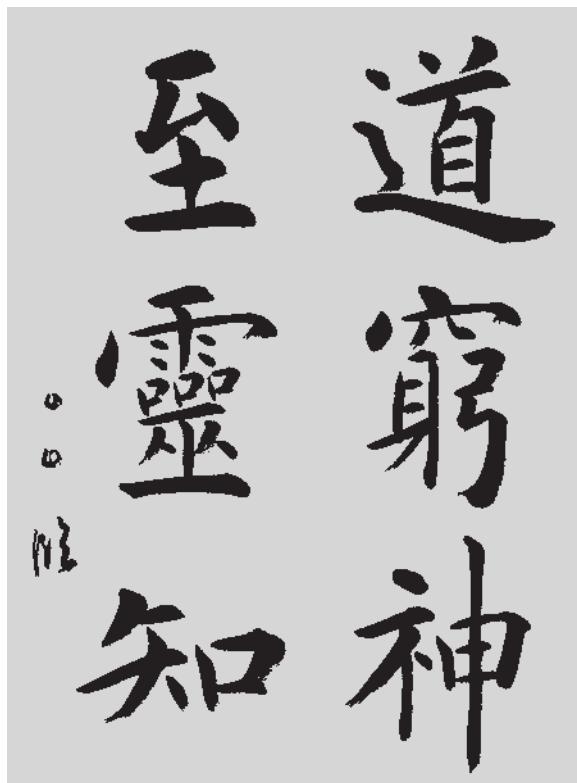
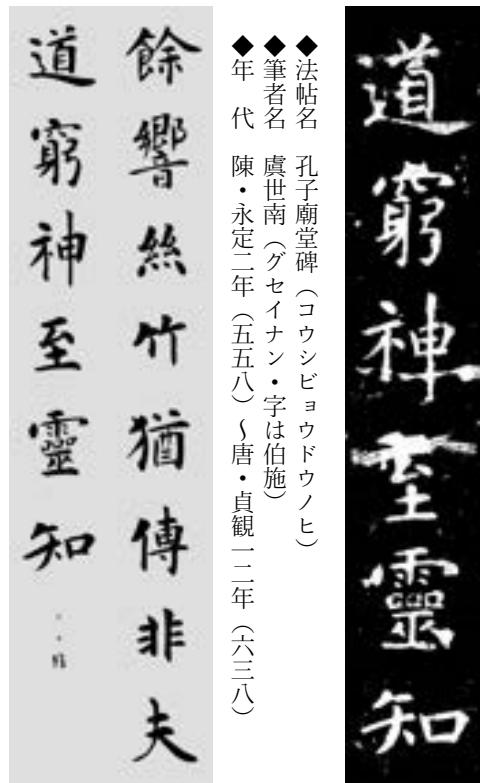
※この課題を今月の随意部へは出品しないで下さい。

釋文
其葉非蓮性自



臨書部初段課題

釋文
道窮神至靈知



臨書部一級以下課題

*この課題は今月の随意部へは出品しないで下さい。

観文
蓋亦坤靈



◆◆◆◆◆
法帖名
筆者名

九成宮醴泉銘 (キユウセイキユウレイセンノメイ)

歐陽詢 (オウヨウジュン・字は信本)

◆◆◆◆◆
年代
解説

隋朝の仁寿宮を改修した壯麗な宮殿「九成宮」へ、太宗皇帝が避暑された時、その離宮の一隅に甘泉が湧出していた。「この吉祥は帝徳によるもので、永くこの泉を大切にすべきである。」というような内容を、勅旨により名臣魏徵が撰し、歐陽詢が書を施した。それがこの九成宮醴泉銘であり、唐代楷書の傑作とされ、「楷法の極則」として古来より尊ばれている。

細字部推薦作品

<p>河野古澤 昌子星泉</p>	<p>坂脇黒石 豊簞健弘</p>	<p>杉村謙崎 浩子節</p>	<p>大西伊達 敏代清子</p>

細字部

吉澤 鐵石書

草
白居易

離離原上草。一歲一枯榮。

野火燒不盡。春風吹又生。

遠芳侵古道。晴翠接荒城。
又送王孫去。萋萋滿別情。

瓢文

離離原上草 一歲一枯榮 野火燒不盡 春風吹又生
萋萋滿別情 (白居易「草」)

【大意】 生い茂る古原の草、それは年に一度、枯れてはまた栄える。枯れた草を野火が焼いても根までは焼き尽くされず、春風が吹けばまた芽ぶく。やがて遠くまで伸びひろがる草は、人の通らない古道をおおい、晴れた日に輝く緑の草原は、荒れて寂しい城壁へとつづいてゆく。今日もまた親しい友を見送ることとなり、別れの悲しみは生い茂る草のように、わが胸にわきおこって尽きることがない。

◆用紙は半紙(24cm×33cm)をお使いください。
※「風信」での出品は出来ません。

◆書風、文字変換、構成等自由です。
◆落款は紙面左下へ入れてご出品ください。

細字部特選作品



藤本
伊藤

佳幸
星詠

坐
川上

今人
京月

倉田
武田

香蘭
蕙

柏原
吉崎

瑞泉
星桜

錦引
飛田

信子
旭鵬

村松
洋子

佐久間
篁石

三月学生部課題

三月三十日〆切

※進級学年の課題を書いて下さい。

中学二・三年（思い出学舎）

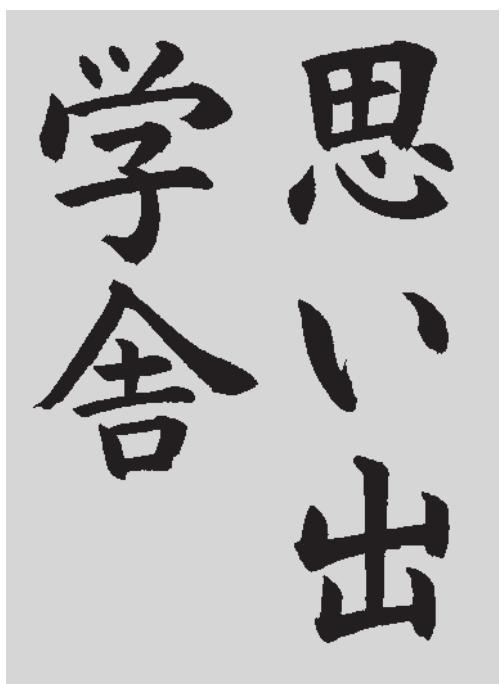
小学六年（梅の古木）

吉澤鐵之書

※中学二・三年に限り、楷書または行書で出品可。



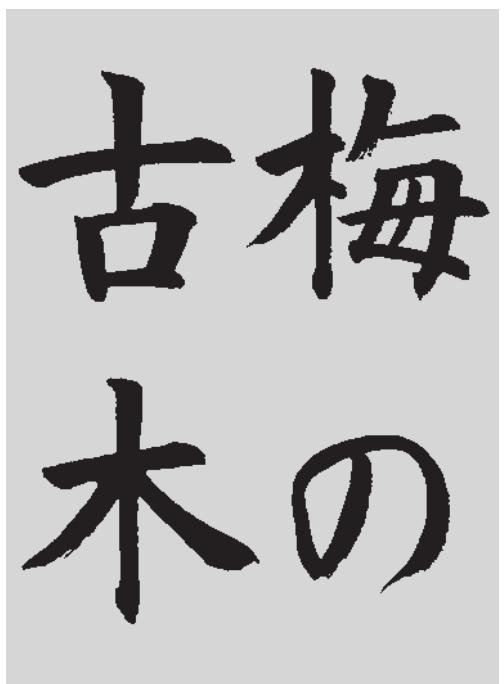
中 学 一 年
(自然美景)



◆たくさんの思い出が詰まった学校、校舎。その思い出を胸に新たな気持ちで4月からスタート！



小 学 五 年
(大宮人)



◆長い歳月を経た梅の木。今年も紅や白のかわいいらしい梅の花が咲いたことでしょう。

◆宮中（皇居）に奉仕する人達のことをいいます。

小学四年（やまがら）

山が

小学三年
(上
下)

上下

◆「上」「下」とも画数が3画しかありません。始筆と終筆の筆づかいを丁寧に伸び伸びとした線で書きましょう。

小学二年（つぐし）

しつく

小一・幼年
(つる)

つる



※小さい字が上手になる様、かならず支部名・段級・名前を小筆で書いて下さい。
※進級学年の課題を書いて下さい。

(本紙イラスト・S.A.美樹
解説・吉澤 錦之)

条幅創作部推薦・特選作品

※条幅創作部は手本がある場合は違反となります。古典などもとづいた倣書・創作なども御出品いただけません。



(特選)若泉 裕明 (特選)山崎 光紗 (特選)川崎 一葦 (特選)飛田 旭鵬



(特選)寺門 紫芳 (特選)松延 彩水 (特選)小口 美貴 (特選)倉田 朱鷗



(推薦) 亀井 彩雨



条幅創作部秀逸作品



(秀逸)山田 瞳水 (秀逸)塚本 虹峰 (秀逸)宗像 豊仙 (秀逸)秋山 嶋川 (秀逸)大内 子暉 (秀逸)篠原 举秋



(秀逸)大塚 梢扇 (秀逸)北見 松子 (秀逸)鹿志村滴水 (秀逸)野坂 冬峻 (秀逸)山本 由美 (秀逸)西野 鶯山

※この課題の解説は五頁に載っています。来月の課題は四頁を御覧下さい。

条幅随意部



(師範)早川 聰芬 (師範)椎名 枝香 (師範)横山 星翠 (師範)飯村 鴻之 (教範)依田希代子 (教範)飛田 旭鵬



(師範)藤咲 香花 (師範)會沢 伯韻 (師範)遠藤 溪祥 (師範)本間 孝子 (師範)高橋 鳴沙 (師範)増子 竹扇

条幅隨意部

春到花東陽傳出看今朝
萬國多南酒一卮

(十)有美

身的病體送紅藥落生都所處人太初上所陽足不祥
因怪人日仲古所害大先生二人在東山深呼大病上空
所著稱安生之子二道行者於都底毛社馬政之空長毛
大將軍毛賊由水少許雷其御空前安君醫(十)有美

事之故與調樂民峰如酒陽

情流家空修不擲一毫

(十)有美

行時無子空心一念以歸山而歸、惟空是空以
小酌取瓶空持以醉醉醉空心空醉空醉空醉

時之舞空(一作二三章子)讀空(一作二三章子)

遯禪有此詩稱詠負

郭子正業代辦

(十)有美

惟列仙長學與千年對

(十)有美

中有愛人瘦衣玉薦解但

(十)有美

移流家空修不擲一毫

(十)有美

豎碑冷香黃梅秀平
湖斜照白鷗翻

(十)有美

山的就空空絕口音醉醉醉醉醉醉醉醉醉醉醉醉醉醉
時之舞空(一作二三章子)讀空(一作二三章子)

事之故與調樂民峰如酒陽

(十)有美

情流家空修不擲一毫

(十)有美

音度急調葉氏揮如酒陽
情流家空修不一擲一毫

(十)有美

宮華乃晴星氣與深亥陰一理洞軒裳偶拾一秀借管
坦忘懷易清揚我行奏淡公起遠至寢之半舟集矣春
殿鳴精神武夫誰先下微鴻體初唱第一聲白面生(十)有美

(十)新納多美子

(十)山本 由美

(準師)奧山千賀代

(準師)小林 彩梨

(準師)高橋奈都実

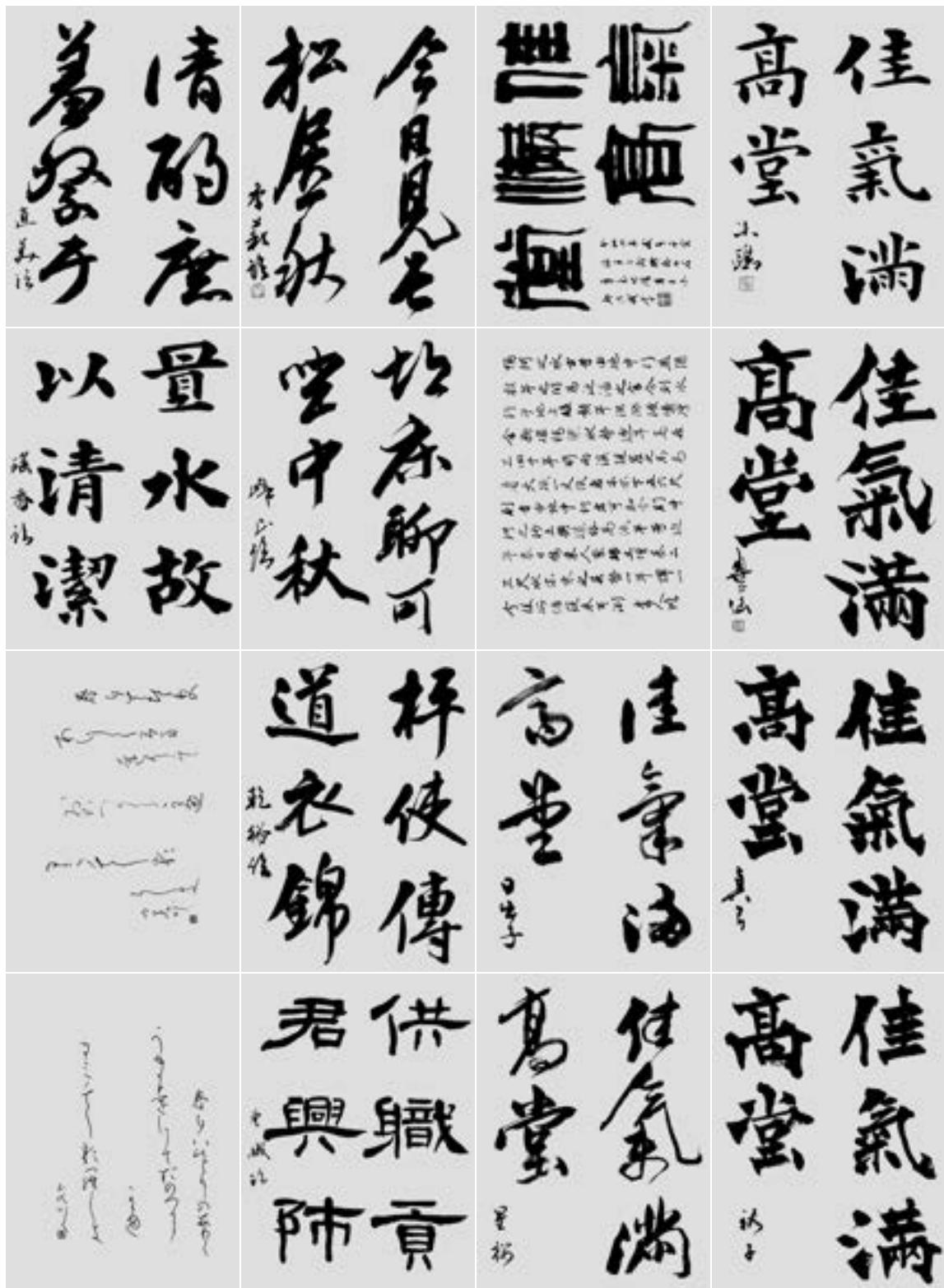
(準師)根本 遥翠

巡禪有地詩稱社負 郭無田莘代耕	市村文彥經歿紀其莫 不臣寧斎首繕	巡禪有地詩稱社負 郭無田莘代耕						
(七) 菊池 侑美	(七) 笹島 真綺	(八) 江原 勝也	(八) 佐藤 幸子	(八) 倉田 香蘭	(九) 島田 純	(九) 伏見 美穂	(九) 磯崎 素芳	(十) 照沼 范麗

範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	巡禪有地詩稱社負 郭無田莘代耕	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	巡禪有地詩稱社負 郭無田莘代耕	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北	範於浦坂城達中鄉 孝義里妻河北
(七) 仲田 桂秋	(四) 冲沢 香織	(五) 鈴木 芳春	(五) 横山 凜星	(五) 松木 涼風	(六) ヒム 札子	(六) 渡邊 緑雨	(六) 小林 葉月	(七) 伊東 桜華

永和九年歲在癸卯暮 春之初會于會	南山有老松蒼翠四時茂 九莖芝伴之千歲齊其壽	巡禪有地詩稱社負 郭無田莘代耕						
(1級以下) 高良 桂舟	(1級以下) 大山千代子	(1級以下) 坐 今人	(初) 長谷川育宏	(初) 野々下知里	(二) 早川 松嵐	(二) 波戸陽太郎	(三) 宮本 秋遊	(三) 篠崎 瑛介

半紙特選



(八段) 阿久津直美
(七段) 平本 瑞香
(師範) 宮野 明美
(師格) 飯束 正代

(師格) 森岡 雨塚 季萩
(準師) (十段) 掛札 岩峰 菲裕
(九段) 小池 豊娥

(教範) 飛田 旭鵬
(師範) 木村 蒼人
(師格) 余吾日出子
(準師) 吉崎 星桜

(教範) 倉田 朱鷗
(師範) 宗像 豊仙
(師格) 大串 真弓
(準師) 新山 裕子

規 定 部

佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂

(七) 伊東 桜華 (八) 志村 達子 (九) 京免 沙織 (十) 黒澤 幸潤
 (七) 名村 澄子 (八) 屋代 伏見 (九) 原田 恵美穂 (十) 山本 吉崎
 (七) 須藤かなみ (八) 小口 美貴 (九) 京免 由崇 (十) 荒木 下川 (格)
 (師) 川上 星染 (師) 手塚 柏州 (格)

佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂

(七) 平本 瑞香 (八) 小口 美貴 (九) 鈴木 愛梨 (十) 橫山 青波
 (七) 伊東 桜華 (八) 松浦 豊玉 (九) 京免 沙織 (十) 古和口瑛香
 (七) 平塚 照美 (八) 志村 達子 (九) 伏見 美穂 (十) 中島 香鳳 (格)
 (師) 鹿志村滴水 (師) 橫山 星翠 (格) 新山 根本 (准) 遠翠 (准)
 (师) 大津 壱春 (师) 大津 壱春

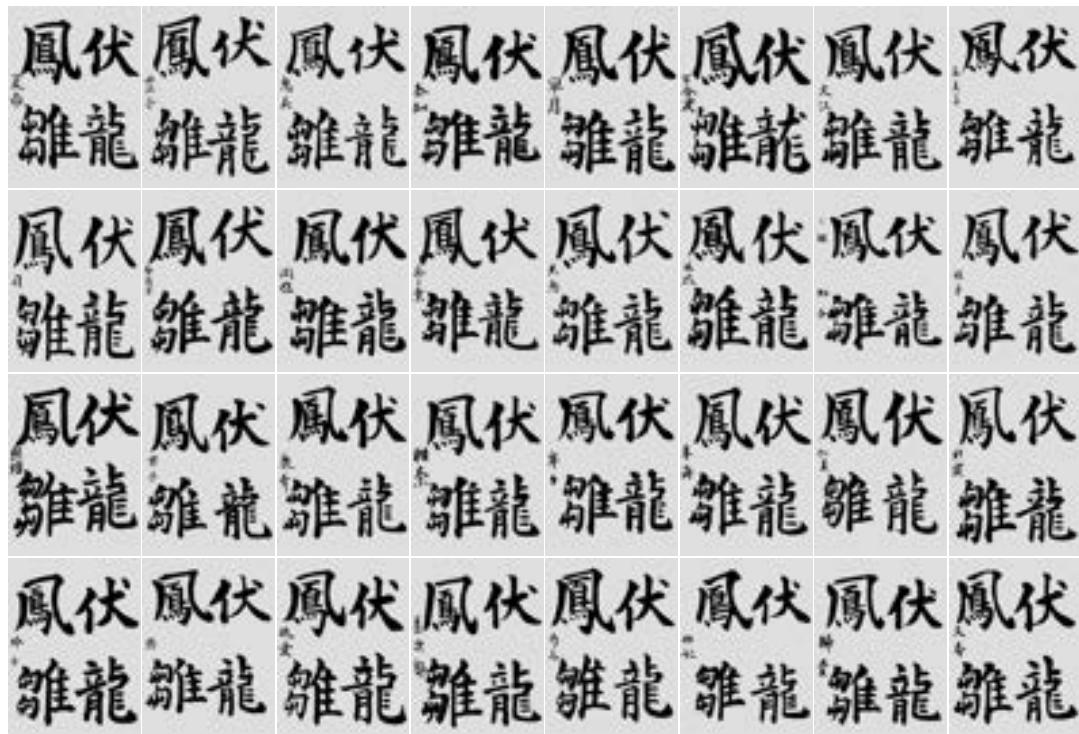
佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>威望</small>	<small>芳翠</small>	<small>高風</small>	<small>大正</small>	<small>篤子</small>	<small>月子</small>
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>りえ</small>	<small>美理</small>	<small>天聰之</small>	<small>一桂</small>	<small>清華</small>	
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>國府</small>	<small>香櫻</small>	<small>蒼子</small>	<small>一桂</small>	<small>純子</small>	
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>則子</small>	<small>波戸</small>	<small>松木</small>	<small>高橋</small>		

(初) 五味淵威望 (二) 八幡 典子 (三) 沼田 芳翠 (四) 半澤 齋藤 (五) 松木 涼風 (六) 小林 葉月
 (初) 壴 りえ (二) 波戸陽太郎 (三) 中村 美理 (四) 齋藤 大貫 (五) 坂本真知子 (六) 高齋 藤清華
 (初) 国府 則子 (二) 大川 璃乃 (三) 堀井 香櫻 (四) 大貫 蒼子 (五) 森本 一桂 (六) 斎藤 純子

佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿	佳氣滿
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>人間</small>	<small>芳翠</small>	<small>高風</small>	<small>大正</small>	<small>篤子</small>	<small>月子</small>
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>育宏</small>	<small>波戸</small>	<small>北條</small>	<small>和田</small>	<small>杉村</small>	<small>虹華</small>
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>りえ</small>	<small>敦子</small>	<small>亮子</small>	<small>奈々絵</small>	<small>玲晴</small>	<small>美峰</small>
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>久</small>	<small>秋遊</small>	<small>三枝子</small>	<small>一成</small>	<small>寿泉</small>	<small>礼子</small>
高堂	高堂	高堂	高堂	高堂	高堂
<small>琳</small>	<small>美惠</small>	<small>小池</small>	<small>浩子</small>	<small>ヒム</small>	

(初) 宮腰 琳 (二) 波戸陽太郎 (三) 北條 亮子 (四) 大和田奈々絵 (五) 杉村 浩子 (六) 杉田 虹華
 (初) 長谷川育宏 (二) 北村 敦子 (三) 鹿志村三枝子 (四) 後藤 一成 (五) 原 玲晴 (六) 高久 美峰
 (初) 壴 りえ (二) 平間 美惠 (三) 宮本 秋遊 (四) 小池 美樹 (五) 福永 寿泉 (六) ヒム 礼子

規 定 部



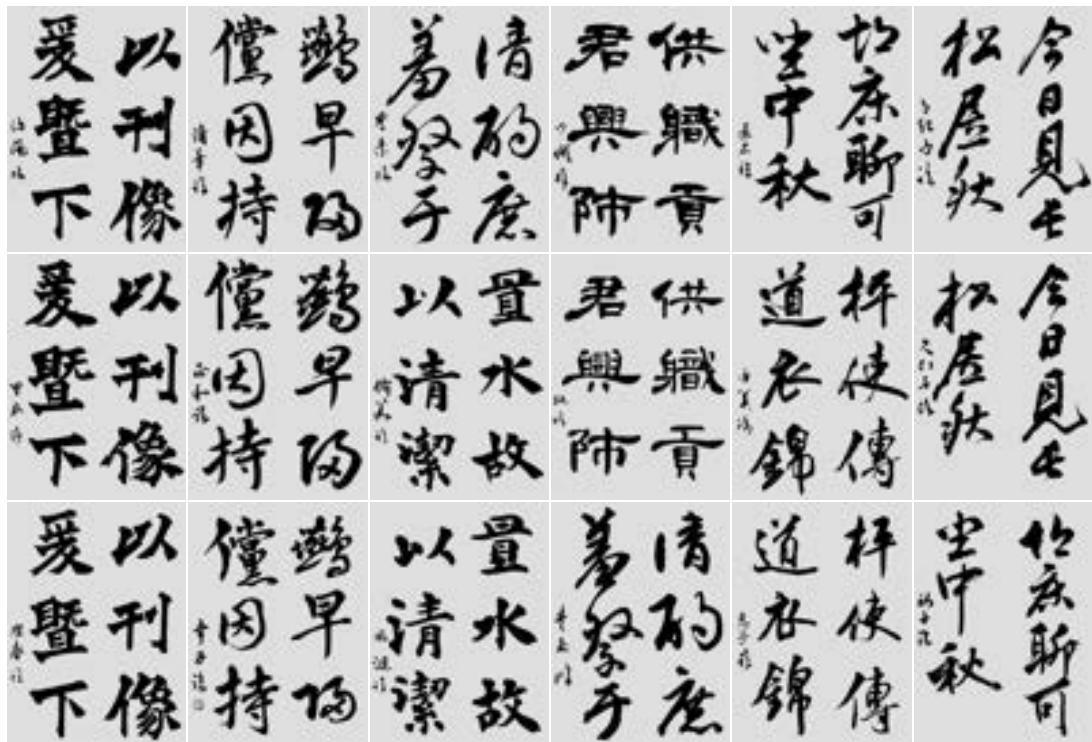
(9)市毛夏南 (8)宮野玲芳 (6)秋田恵美 (5)松本泰知 (4)水野谷早月 (2)新倉百合愛 (1)島田文江 (1)石島惠美子
 (9)大金 司 (8)有賀智恵子 (7)川又潤也 (5)高橋奈々葉 (4)石塚光恵 (3)長嶋琳風 (2)細川妙子 (1)宮崎雅子
 (10)小林照煌 (8)松澤君子 (7)萩野谷康介 (6)仁平柑奈 (4)峯島寧々 (3)勝木朱海 (2)小沼仁美 (1)竹原彩霞
 (新)池亀玲子 (9)五江渕勝 (7)吉岡琉愛 (6)堀口善次郎 (5)會澤秀美 (3)恒松佑妃 (2)古山稀貴 (1)岡本文香

隨 意 部

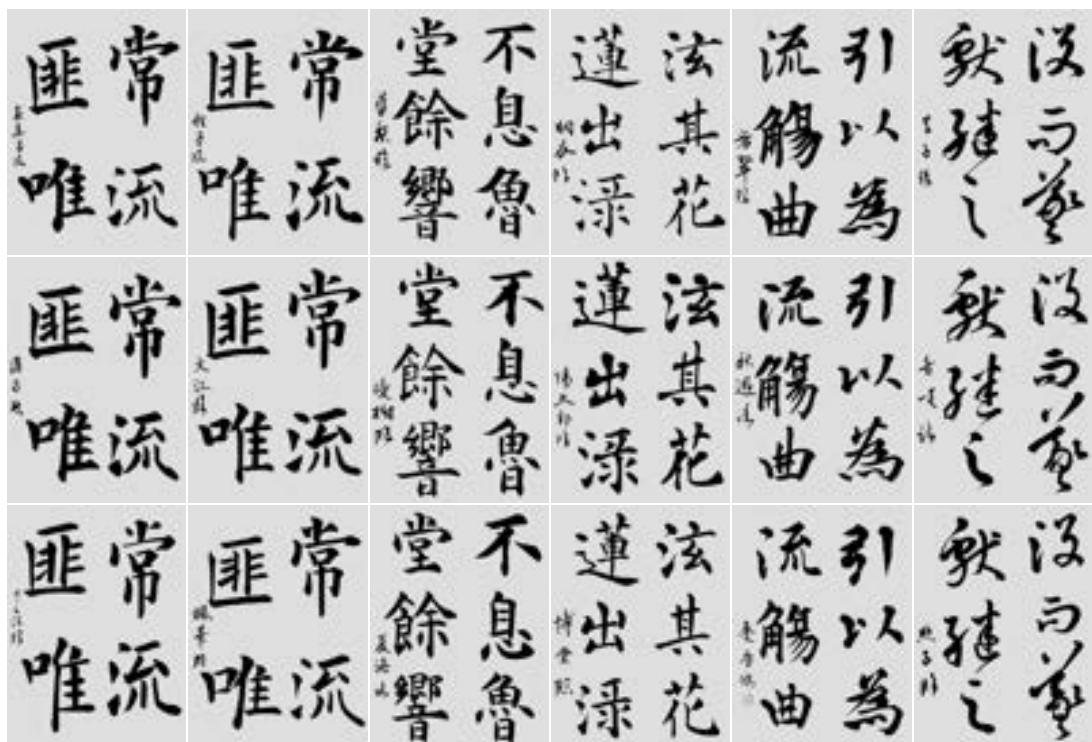


(9)五江渕勝 (8)宮野玲芳 (6)福士加恋 (5)松本泰知 (4)宮崎恵子 (2)木村幸代 (1)小峯ゆい (1)大山千代子
 (9)大竹優希 (8)浅田優奈 (7)片渕若葉 (5)池田朗子 (4)石塚光恵 (3)宮田順子 (1)池田明香里 (1)新澤淳子
 (新)池亀玲子 (8)飯塚紀仁 (7)坂本樹梨 (6)城山晃月 (4)鈴木ゆり乃 (3)加藤蒼空 (2)海野愛菜 (1)石島惠美子
 (新)古川京佳 (9)大金 司 (7)萩野谷康介 (6)秋田恵美 (5)高橋奈々葉 (3)広内涼香 (2)永井明衣咲 (1)酒井杏寧

臨書部

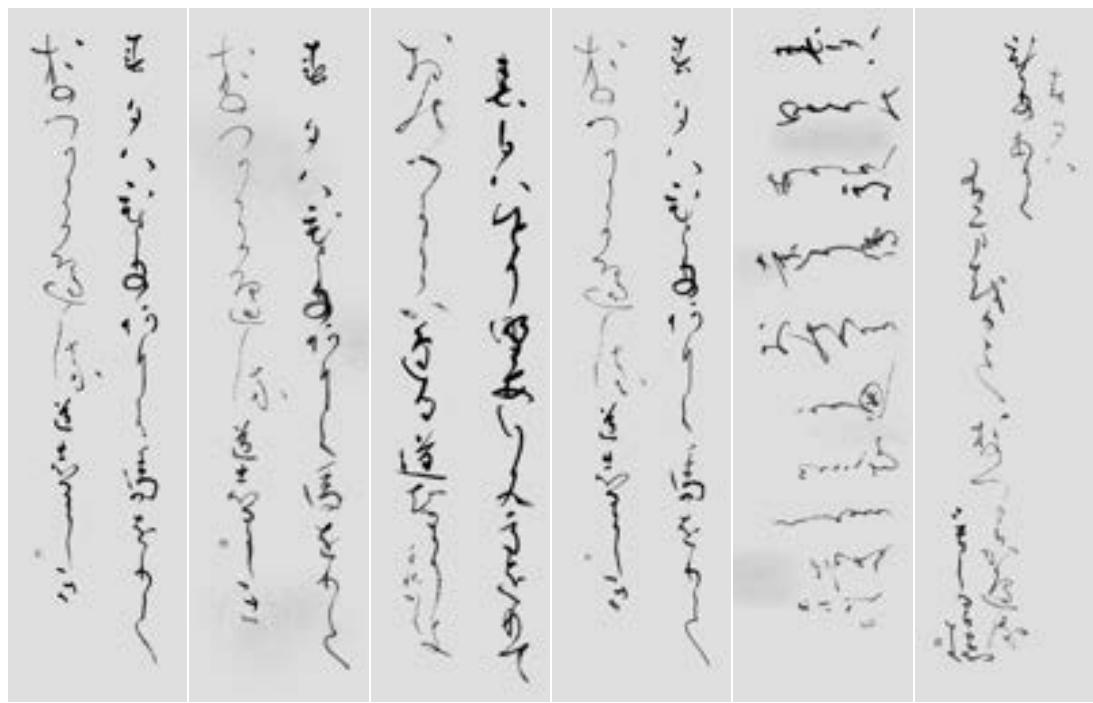


(五) 松木 涼風	(六) 斎藤 清華	(八) 笹岡 豊素	(九) 京免 沙織	(準) 川村 景石	(格) 植田有紀子
(五) 藤枝 里衣	(六) 福原 正和	(七) 菊池 幸子	(九) 島松 道夫	(十) 山本 由美子	(格) 原 久仁子
(五) 高崎 煙春	(六) 小島 幸子	(七) 宮崎 風漣	(八) 松浦 豊玉	(十) 林 恵子	(準) 新山 裕子



(級) 石島恵美子	(級) 宮崎 雅子	(初) 坂本 藍梨	(二) 宮腰 桐衣	(三) 沼田 芳翠	(四) 半澤 篤子
(級) 新澤 淳子	(級) 島田 文江	(初) 原辻 優樹	(二) 波戸陽太郎	(三) 宮本 秋遊	(四) 大内 音咲
(級) 鬼沢さく江	(級) 山崎 楓華	(初) 辻 夏海	(二) 吉井 博堂	(三) 額賀 香慶	(四) 小森てる子

かな幅部



(C) 津田 芳華

(B) 町田 アキ

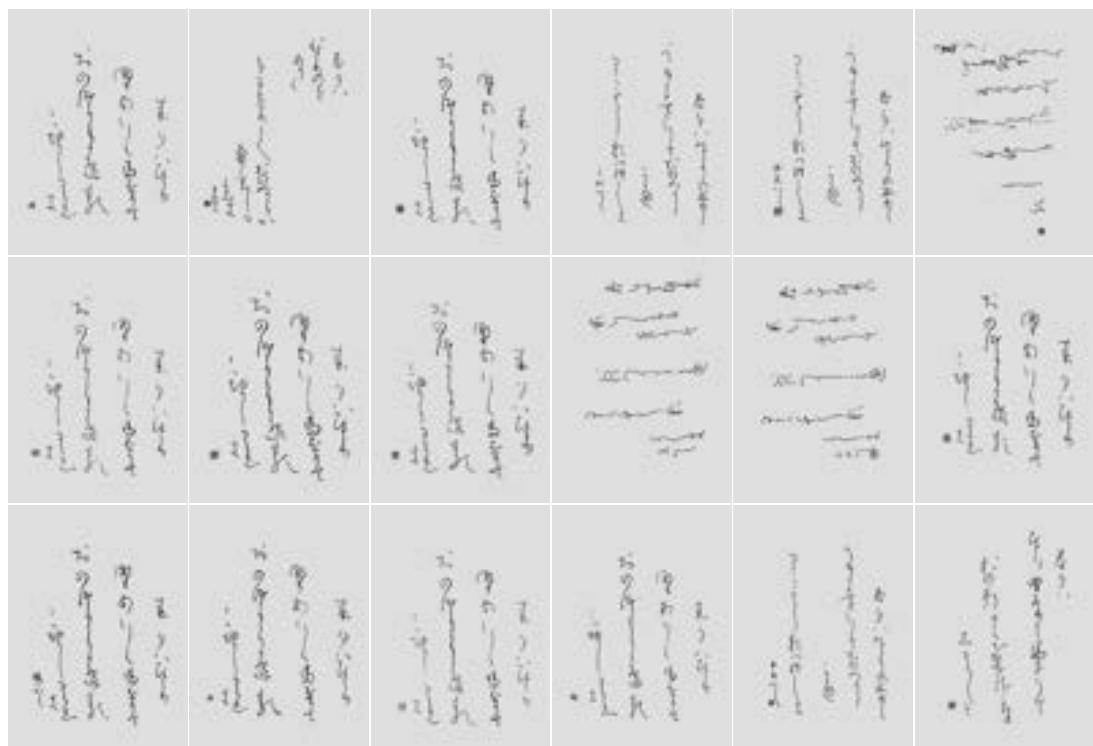
(A) 毛利 千秋

(A) 島 清子

(師) 金子 紫洋

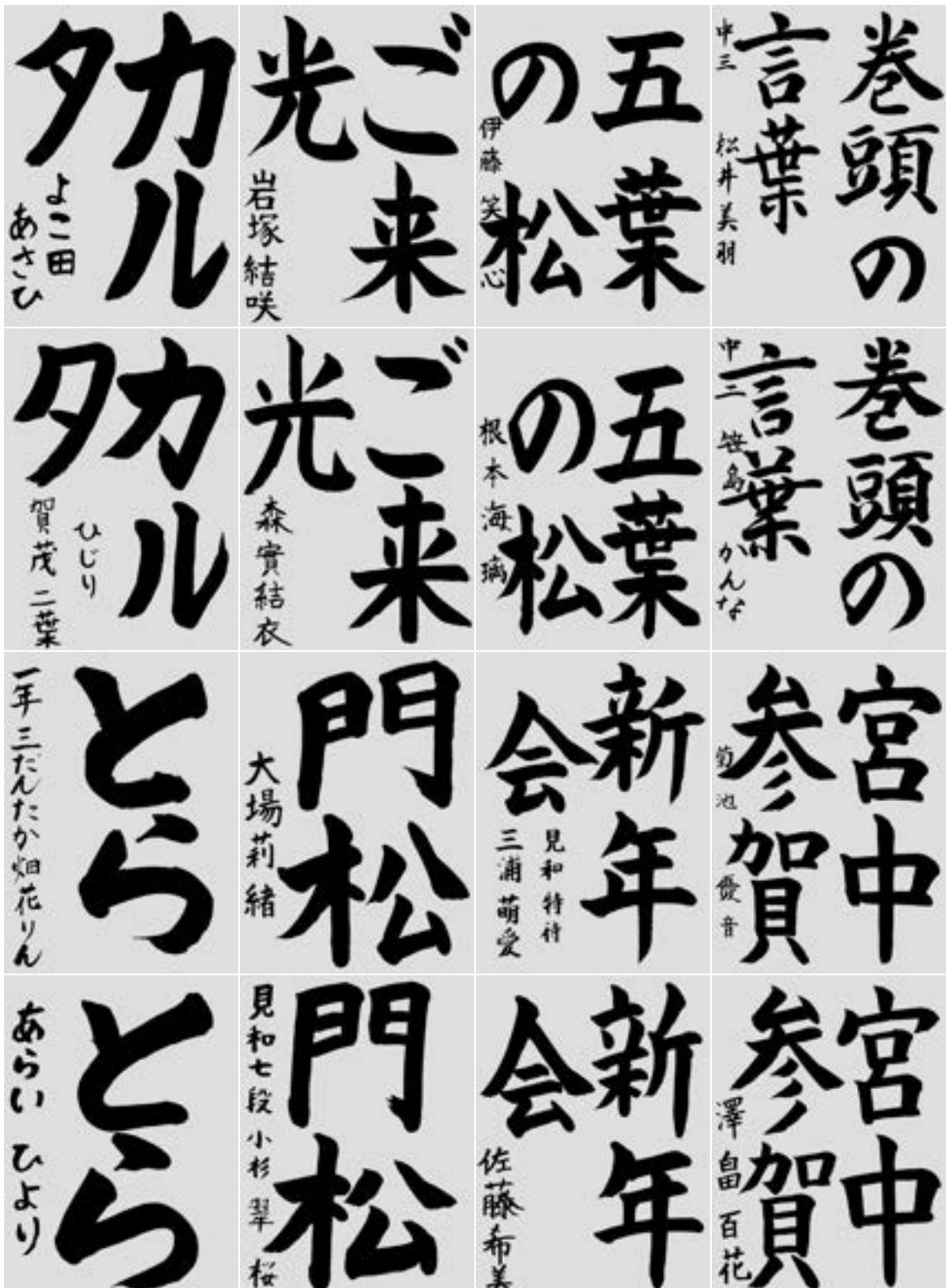
(師) 関口 梨舟

かな規定部



(1) 小池 豊娥	(初) 藤咲 真規	(四) 松浦 豊玉	(七) 毛利 千秋	(十) 柏原 瑞泉	(師) 笹井 鋒水
(1) 鬼頭 彩薰	(初) 澤口きく子	(三) 鬼沢さく江	(六) 曾我部 泉	(九) 藤田 宗世	(格) 佐久間香春
(1) 松尾 俊一	(初) 宗像 豊仙	(二) 黒石 健弘	(五) 長尾百合子	(八) 中島 香蘭	(準) 金光 紀仙

学生部特選作品



(四段) 横田あさひ
(三段) 賀茂二葉
(三段) 高畑花凜
(二段) 荒井陽依

(準特) 岩塚結咲
(十段) 森實
(八段) 大場莉緒
(七段) 小杉翠桜

(特待) 伊藤根本
(準特) 三浦萌愛
(特待) 佐藤希美
(準特)

(特待) 松井笛島
(準特) かんな
(特待) 菊池優音
(準特) 澤畠百花

卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉	卷頭の言葉
遠藤 片岡 酒井 石島	聰汰 和香 里美 結花	大海 鶴小 泉飯 島	愛奈 悠生 愛里 奈	海老沢 皆川 松下 仲沢	大輝 凛音 梨乃 香穂	赤荻 柴山 安生 本保	言葉 叶晃 大友 子	莉央 寧琴 木勝 木濱	石川 伸桂 石毛
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	希渚 千歲 彩子	湯瀬 佐藤 渡邊
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	希音 陽里	優佳 旭
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	央莉 功揮	高野 松井 中島 南百瀬
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	真悟 季	

光ご来新年	会新年	会新年	会新年	会新年	会新年	会新年	会新年	会新年	会新年
大場 三好 小池 富田	愛菜 結菜 然駿	保坂 赤川 石塚 谷口	真凜 葵乙空 環実 智砂	田村 遙一朗 藤本 希千絢	向井はるか 雲乘帆奈実 野口瑞稀 渡邊	中野 齋藤 松下 原田	結萌 桃香 明莉 原田	檜山 若林 木名瀬 尾吹	理桜 真衣 優鞠花
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	弓奈 也	東横 岸信 太郎 芽久
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	環 龍	嶺 希太 朗
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	奈 紀	大内 春紀
五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	五葉 の松 葉	也	

今成陽菜 門松	涼平 門松	三年長谷川ミエ 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松
大喜川多衣 門松	横倉舞 門松	八年心音 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松
土星田暢野 門松	三年新井結大 門松	性谷希宣 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松
春日望愛琉 門松	高橋愛理 門松	初音美穂 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松	ご来 門松	光 門松
今成陽菜 大井川芽衣 豊田侑那 春日望愛琉	伊藤昇悟 横倉舞 新井大愛理	大内平優 八木希空 住谷結愛	諒希 心音 咲希	長谷川亞希 佐藤奏心 藤原莉央	こころ未 大輪あいの 大島愛夢	小澤颯華 大輪あいの 大島仲田	武田悠 塙木大 鈴木大澤	大和真 悠麻瑞 友希	富永瀬 松椿結 伊澤茉衣子	一花志 木美花 安藤志 歩萌夏	柏村鈴 木美花 安藤鳴井

えんどうや とら	しはうげんちかは とら	さいとうたくあ とら	わいばよひ とら	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	門松 門松					
五人 ことだめい とら	すずき とら	大はゆな とら	いとみや とら	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	門松 門松					
おかゆ るか	おかもや とら	ひ山 せいな とら	せり牛 とら	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	タカル タカル	門松 門松					
遠藤 藤田 岡田 成島	結衣 葵 瑠香 暉登	玄地 木 日向寺 宮本恭之介	夏帆 優杏 奈 聖夕季	齋藤 大樹 松山 藤岡	匠奈 優奈 聖 夕季	岡田 生井 石川 中川	眞奈 心 柊 凜音	石原 伊藤 寺門 菊池	英奈 璃茉 英 海老原	日和 優琉 奈 遥	瀧澤 淳多 小澤	優心 怜那 陽葵 羽希	橋本梨愛 吉田愛里 彦谷 松葉	良 依 美羽 千恵

ペン字部課題

3月30日〆切

(小5年)

(小6年)

(中学部)

(一般部)

樂 あれ ば	苦 あ れ い 者 の	若 い 年 寄 の	年 寄 の 物 忘 れ 別	物事の決断が出来ない人は 大切な仕事には役に立てない	向 渾 疑 是 舊 詩	看 花 好 似 尋 良 友 得
--------------	----------------------------	-----------------------	---------------------------------	-------------------------------	----------------------------	--------------------------------------

ペン字部用箋 (A)

ペン字部用箋 (A)

ペン字部用箋 (B)

ペン字部用箋 (B)

◆ 第一、御送金願います。
◆ 品物といつしよに振込用紙(代
金・送料の明細を記入したも
の)を同封しますので、到着次
て、電話・葉書・FAXなどで
お願いします。

◆ ペン字用箋が(A)(マス目ワク入
り)と、(B)(縦ワクのみ)と二
種類になります。価格は同じで
すが、注文の際は(A)・(B)の別を
明記して下さい。

◆ ペン字用箋の場合は、五冊(五〇〇
円送料別)以上よりお願いしま
す。

※硬筆部の段級は毛筆部とは別です
ので間違わない様にして下さい。
※黒(墨汁、ボールペン、鉛筆、ペ
ン)を使用のこと。(青、赤は不可)
※用紙は本会制定用箋(A)(B)使用のこ
と。

花を見るは好し良友を尋ねまわって
花を尋ねまわってみるのは恰も良
友を訪うようでなつかしく、句を得て
得れば雷同じしたものが多く旧詩か
とも思われる。
得句渾疑是舊詩。
看花好似尋良友。
是旧詩。

一般部祝文

ペン字用箋
通信販売について

(小1・幼年)

(小2年)

(小3年)

(小4年)

あ

な

しか

ひ

い 入 の 花

よ べ

白 酒

な 祭

か う 日 花

う に

を そ

り

き え う ば

じ

に そ

に

く お す た

耳

な

な

け れ け

目

え

る

こ に

あり

ペン字用箋は(A)(ワク入り)・(B)(ワク無し)共に五十枚綴り一冊100円です。

吉

澤

鐵

之

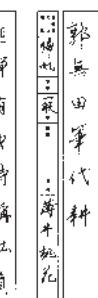
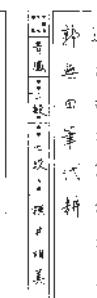
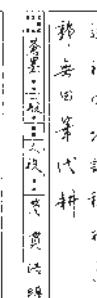
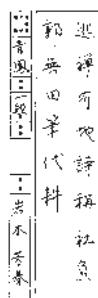
書

ペン字部用箋 (A)

ペン字部用箋 (A)

ペン字部用箋 (A)

ペン字部用箋 (A)



ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛 美夢

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

高野：中・待待・角間葉月

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り

弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り
弘法は筆を選ばず 弘法も筆の誤り

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

ことしより君がよほひをよみて見む
松の千とせをあり數にして 良寛

我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る

我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る
我身を つねつて 人の 痛さを知る

馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ

馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ
馬には乗つてみよ 人には乗つてみよ

追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした

追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした
追いかけつゝをし あおい 目をした

追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳

追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳
追いかけつゝをし 遊んだ 田村篤紳

追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも

追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも

追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも
追いかけつゝをし いつしか としも

第62回日本書作院展成績（本会関係）

同人・漢字

日本書作院大賞（文部科学大臣賞）吉澤 衡石

日本書作院準大賞（駐日本中國大使館賞）金内 草香

日本書作院準大賞（茨城県知事賞）佐久間 篠石

日本書作院準大賞（読売新聞社賞）大和田 豊久

日本書作院準大賞皆藤 可道

日本書作院準大賞柏木 紫香

日本書作院準大賞小泉 芳香

日本書作院準大賞田畠 梢映

日本書作院準大賞増子 竹扇

日本書作院準大賞依田希代子

(以下本会関係)

審査員特別賞川崎 一葦

書作院奨励賞坪木 虹月

書作院奨励賞大和 扇秋

書作院奨励賞前田 游美

書作院奨励賞川崎 一葦

書作院奨励賞東山 翠華

書作院奨励賞原 久仁子

准同人・漢字
推薦（全日本書道連盟賞）

推 薦 小林 彩梨

推 薦 内田 紫陽

推 薦 特選

佳 作 木村 井上

和舟 素春

魚住 坂本

彩龍 龍斗

江里 十亀

董秀 豊掬

同人・かな
特選

手塚 田口

星染 晴麗

立花 山田

遊韻 豊秋

久保 吉嶋

玲香 星桜

塚本 虹峰

立花 山田

遊韻 豊秋

久保 吉嶋

玲香 星桜

塚本 虹峰

院友・漢字
推薦（全日本書道連盟賞）

特選 渡辺 江里

入選 渡辺 菊池

入選 伊藤 會澤

入選 小松崎瑛泉

入選 田所 岳鳳

入選 細谷 法子

副理事長 吉澤

参 与 亀井 彩雨

同人出品 鐵之

常任理事
理事 事

倉田 西野

朱鷗 鶩山

伯韻 一葦

鴻之 依田希代子

飯村 横山

柏原 鈴木

鈴木 横山

鈴木 星翠

鈴木 阳山

鈴木 荒井

鈴木 豊汎

鈴木 小川

鈴木 豊雙

鈴木 錦理奈

鈴木 針替

鈴木 春山

鈴木 夏風

鈴木 渡辺

鈴木 渡辺

鈴木 夏風

鈴木 渡辺

鈴木 夏風

鈴木 渡辺

鈴木 夏風

鈴木 渡辺

鈴木 夏風

鈴木 渡辺

評議員
常任理事

佐久間 篠石

蟹郊 松浦

春蕙 花泉

佐久間 篠石

同人
常任理事

吉澤 太雅

松豊 榎原

新堀 金尾

松豊 榎原

※賞は賞状及び昇級のみ、○印は昇級のみ、賞印は賞状のみです。出品券に段級を記入する際は、段を漢数字、級を算数字で記入して下さい。

小野下妻	松原堀	太田天游會	柏赤塚一	太田盟友	柏心寶	柏里法	柏伟大	柏堀原	柏學林	柏墨原	太田下妻	吉田皓流	吉田智子	吉田書神
小野下妻	松原堀	太田天游會	柏赤塚一	太田盟友	柏心寶	柏里法	柏伟大	柏堀原	柏學林	柏墨原	太田下妻	吉田皓流	吉田智子	吉田書神
吉田皓流	吉田智子	吉田學林	吉田墨原	吉田太	吉田柏心	吉田柏里	吉田柏大	吉田柏堀	吉田柏學	吉田柏墨	吉田太	吉田吉田	吉田吉田	吉田吉田
吉田皓流	吉田智子	吉田學林	吉田墨原	吉田太	吉田柏心	吉田柏里	吉田柏大	吉田柏堀	吉田柏學	吉田柏墨	吉田太	吉田吉田	吉田吉田	吉田吉田
吉田皓流	吉田智子	吉田學林	吉田墨原	吉田太	吉田柏心	吉田柏里	吉田柏大	吉田柏堀	吉田柏學	吉田柏墨	吉田太	吉田吉田	吉田吉田	吉田吉田

※本が手元に届く前にお清書を投函される場合は、前月号の級を記入し、脇に赤で「調」と書いて下さい。

中一年	四	長心和	白帆	段小口恰並
	三	新磯貝夢乃	入菅谷修平	段小口恰並
	二	足会○右9級へ五江潤修	待生特待生	段新磯貝夢乃
	一	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	九	入菅谷修平	白帆	段小口恰並
	八	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	七	入菅谷修平	白帆	段小口恰並
	六	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	五	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	四	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	三	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
	二	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
特待生	一	新菅谷修平	白帆	段小口恰並
小六年	五	五	五	五
	四	星垂水	垂風	晴海
	三	墨水	風	鯉渕なつき
	二	墨水	風	本守歩友子
	一	墨水	風	佐藤美優
	九	九	九	九
	八	心寶	勝風	西野快花
	七	心寶	勝風	楳谷桃花
	六	心寶	勝風	鷗盟心寶
	五	心寶	勝風	鷗盟心寶
	四	心寶	勝風	鷗盟心寶
	三	心寶	勝風	鷗盟心寶
特待生	二	心寶	勝風	鷗盟心寶
大九年	十	星垂風	星垂風	星垂風
	九	星垂風	星垂風	星垂風
	八	星垂風	星垂風	星垂風
	七	星垂風	星垂風	星垂風
	六	星垂風	星垂風	星垂風
	五	星垂風	星垂風	星垂風
	四	星垂風	星垂風	星垂風
	三	星垂風	星垂風	星垂風
	二	星垂風	星垂風	星垂風
	一	星垂風	星垂風	星垂風
	九	星垂風	星垂風	星垂風
	八	星垂風	星垂風	星垂風
特待生	七	星垂風	星垂風	星垂風
大九年	七	星垂風	星垂風	星垂風
	六	星垂風	星垂風	星垂風
	五	星垂風	星垂風	星垂風
	四	星垂風	星垂風	星垂風
	三	星垂風	星垂風	星垂風
	二	星垂風	星垂風	星垂風
	一	星垂風	星垂風	星垂風
	九	星垂風	星垂風	星垂風
	八	星垂風	星垂風	星垂風
	七	星垂風	星垂風	星垂風
	六	星垂風	星垂風	星垂風
	五	星垂風	星垂風	星垂風
特待生	四	星垂風	星垂風	星垂風
大九年	四	星垂風	星垂風	星垂風
	三	星垂風	星垂風	星垂風
	二	星垂風	星垂風	星垂風
	一	星垂風	星垂風	星垂風
	九	星垂風	星垂風	星垂風
	八	星垂風	星垂風	星垂風
	七	星垂風	星垂風	星垂風
	六	星垂風	星垂風	星垂風
	五	星垂風	星垂風	星垂風
	四	星垂風	星垂風	星垂風
	三	星垂風	星垂風	星垂風
	二	星垂風	星垂風	星垂風
特待生	一	星垂風	星垂風	星垂風

※賞は賞状及び昇級、○印は昇級のみ、賞印は賞状のみです。

※賞は賞状及び昇級、○印は昇級のみ、賞印は賞状のみです。出品券に段級を記入する際は、段を漢数字、級を算数字で記入して下さい

※賞は賞状及び昇級、○印は昇級のみ、賞印は賞状のみです。

かな規定部	ペニ一般
大師 宗像芳泉 旭 桜井由香 秋田 佐藤聖賢	書堂飲既夜復邀李尚書下馬月下賦絶句
春暎 安部川春暎	（書堂にて）飲む、既に夜なり、復た李尚書を邀え、馬より下りしとき月下にて賦せし絶句）
墨川 大塚菜水	杜甫
	書堂は書齋のこと。作者の詩集には、この詩の前に「胡侍御の書堂に宴す」という詩をのせており、「李尚書之芳・鄭秘監審と同集す」という作者の自注がある。前の詩のあと、夔州を去って江陵に滞在していた時期の作である。おそらく胡侍御の書堂に作者と李之芳・鄭審が集まって飲み、李はさきに帰ったのを、夜中になってから作者がまた迎えに行つたのである。邀は呼びむかえること。尚書は尚書省の礼部・吏部など六つの部の長官であるが、李が何部の尚書であつたかはわからない。ともかく李之芳をもう一度連れて来て、馬から下りたとき、月光のもとで作った詩である。
	久拝野鶴如雙鬢 遮莫隣鶴下五更
	久しく野鶴の双鬢の如くなるに拝す 遮莫隣鶴の五更を下るを
	○ 拝 ほつておく。なるようになせておく。「判」となつてい
	る本もある。意味は同じ。○野鶴如双鬢 両方の鬢に白髪が 生え、野にすむ鶴のようだというのを、鶴が鬢のようだと表 現したもの。双は「霜」となつてゐる本もある。
	○ 遮莫 「拝」と同じ意味。どうともなれという気持をあら わす。○下五更 更は夜の時刻を五等分した単位。五更は夜 明け近い刻限である。下はその時刻を過ぎること。また、夜 まわりのことを「下夜」というから、ここも五更の時刻を告 げ知らせる意味にも解し得る。

かな規定部	ペニ一般
大師 宗像芳泉 旭 桜井由香 秋田 佐藤聖賢	書堂飲既夜復邀李尚書下馬月下賦絶句
春暎 安部川春暎	（書堂にて）飲む、既に夜なり、復た李尚書を邀え、馬より下りしとき月下にて賦せし絶句）
墨川 大塚菜水	杜甫
	書堂は書齋のこと。作者の詩集には、この詩の前に「胡侍御の書堂に宴す」という詩をのせており、「李尚書之芳・鄭秘監審と同集す」という作者の自注がある。前の詩のあと、夔州を去って江陵に滞在していた時期の作である。おそらく胡侍御の書堂に作者と李之芳・鄭審が集まって飲み、李はさきに帰ったのを、夜中になってから作者がまた迎えに行つたのである。邀は呼びむかえること。尚書は尚書省の礼部・吏部など六つの部の長官であるが、李が何部の尚書であつたかはわからない。ともかく李之芳をもう一度連れて来て、馬から下りたとき、月光のもとで作った詩である。
	久拝野鶴如雙鬢 遮莫隣鶴下五更
	久しく野鶴の双鬢の如くなるに拝す 遮莫隣鶴の五更を下るを
	○ 拝 ほつておく。なるようになせておく。「判」となつてい
	る本もある。意味は同じ。○野鶴如双鬢 両方の鬢に白髪が 生え、野にすむ鶴のようだというのを、鶴が鬢のようだと表 現したもの。双は「霜」となつてゐる本もある。
	○ 遮莫 「拝」と同じ意味。どうともなれという気持をあら わす。○下五更 更は夜の時刻を五等分した単位。五更は夜 明け近い刻限である。下はその時刻を過ぎること。また、夜 まわりのことを「下夜」というから、ここも五更の時刻を告 げ知らせる意味にも解し得る。

令和三年度

後期昇格試験学生部特待生合格者

①名前 ②学校名 ③学年 ④支部長名（順不同）



①山口由衣那
②勝田第三中学校
③ 2 年
④川崎一葦



①長谷川紗菜
②那珂湊第一小学校
③ 6 年
④牧野美香



①加藤 美亞
②那珂湊第一小学校
③ 6 年
④牧野美香



①印南 舞姫
②那珂湊中学校
③ 3 年
④牧野美香



①川平 夏海
②日吉中学校
③ 2 年
④影浦繁子



①成島 実優
②下稻吉中学校
③ 1 年
④塚本杏花



①菊地こころ
②下稻吉中学校
③ 1 年
④塚本杏花



①林 成毅
②下稻吉中学校
③ 2 年
④塚本杏花



①江口陽菜多
②坂東東中学校
③ 3 年
④木村素春



①石井 糜子
②霞ヶ浦南小学校
③ 6 年
④古渡祥子



①尾花 里菜
②湖東中学校
③ 2 年
④山下瑠美子



①齋藤 夏輝
②勝田第二中学校
③ 2 年
④木村英子



①佐藤 心乃
②牛久南中学校
③ 2 年
④奥泉竹泉



①友部 遥陽
②妻里小学校
③ 6 年
④谷津鳳苑



①高沢 星那
②明峰中学校
③ 2 年
④高沢初枝



①大内 美南
②芳野小学校
③ 5 年
④篠原挙秋



①岩間 悠隼
②那珂第三中学校
③ 2 年
④篠原挙秋



①大内 陽斗
②那珂第三中学校
③ 2 年
④篠原挙秋



①森川 絆那
②谷田部東中学校
③ 2 年
④伊藤春蕙



①辻 若葉
②高松中学校
③ 1 年
④村山友穂



①鈴木 翠桜
②鉢形小学校
③ 5 年
④村山友穂



①野辺地瑠生
②鹿野中学校
③ 1 年
④村山友穂



①平山 晴奏
②麻生小学校
③ 6 年
④椎名枝香



①新原 愛那
②日立第一高校
附属中学校
③ 1 年
④美樹SA



①長山 心美
②佐野中学校
③ 2 年
④美樹SA



①飛田 結彩
②佐野中学校
③ 2 年
④美樹SA



①榎 真央
②勝田第三中学校
③ 2 年
④美樹SA



①山崎 莉子
②津田小学校
③ 5 年
④松延彩水



①小田倉凜々
②芳野小学校
③ 5 年
④篠原挙秋



①松浦 杏佳 ①尾藤 光志 ①小林 千笑 ①大内 誠 ①飛田 紗寧 ①桑原 樹道 ①板橋 一花
 ②春日学園 ②吾妻中学校 ②吾妻小学校 ②勝田中等教育学校 ②大島中学校 ②茨城キリスト ②麻生中学校
 義務教育学校 ③ 1 年 ③ 5 年 ③ 1 年 ③ 3 年 ③ 1 年 ③ 1 年
 ④内田紫陽 ④内田紫陽 ④内田彩凰 ④池田彩凰 ④池田彩凰 ④池田彩凰 ④椎名枝香



①山本 瑞牙 ①中庭 梓乃 ①山崎 大也 ①中村 海智 ①鹿嶋 美佑 ①坪 結愛 ①森 和雅
 ②笠間中学校 ②水戸第五中学校 ②赤塚中学校 ②浅野中学校 ②山方中学校 ②山方中学校 ②田彦中学校
 ③ 2 年 ③ 1 年 ③ 2 年 ③ 2 年 ③ 1 年 ③ 1 年 ③ 2 年
 ④川野輪篤子 ④大錆千鶴 ④塚本里美 ④金尾松豊 ④金子紫洋 ④金子紫洋 ④松浦螢郊



①田添 結奏 ①濱田 杏那 ①遠藤 混太 ①石川 琴葉 ①石川 愛梨 ①鷹野 凜 ①藤本 柚葉
 ②府中小学校 ②府中小学校 ②小野中学校 ②高野小学校 ②佐野中学校 ②佐野中学校 ②佐野中学校
 ③ 5 年 ③ 6 年 ③ 2 年 ③ 6 年 ③ 1 年 ③ 2 年 ③ 2 年
 ④大塚梢扇 ④大塚梢扇 ④阿部大溪 ④佐久間篁石 ④佐久間篁石 ④佐久間篁石 ④佐久間篁石



①栗原 彩羽 ①海老名祐果 ①平塚 世奈 ①入江 蓮 ①高信 虹羽 ①高野 真央 ①能島美衣奈
 ②青葉中学校 ②内原中学校 ②久米小学校 ②稻田中学校 ②勝田中等教育学校 ②田彦中学校 ②東海南中学校
 ③ 3 年 ③ 3 年 ③ 6 年 ③ 2 年 ③ 1 年 ③ 2 年 ③ 2 年
 ④海老原秋芳 ④海老原秋芳 ④川崎白游 ④田中穂朋 ④関雅山 ④関雅山 ④関雅山



①細貝 美月 ①堀江 星凪 ①菊池 真歩 ①久野 太翔 ①篠原 由衣 ①金澤 麻結 ①高橋 音乃
 ②菅谷西小学校 ②菅谷西小学校 ②那珂第四中学校 ②鉢田北小学校 ②前渡小学校 ②峰山中学校 ②青葉中学校
 ③ 6 年 ③ 6 年 ③ 1 年 ③ 5 年 ③ 5 年 ③ 1 年 ③ 1 年
 ④鹿志村滴水 ④鹿志村滴水 ④鹿志村滴水 ④大貫艸穹 ④大内子暉 ④大内子暉 ④海老原秋芳



①樋村 彩花
②外野小学校
③ 6 年
④増子竹扇

①小泉亜香里
②茨城中学校
③ 1 年
④増子竹扇

①高星 愛月
②佐野中学校
③ 2 年
④増子竹扇

①小林 柚菜
②大島中学校
③ 2 年
④増子竹扇

①宮田 晃汰
②舟石川小学校
③ 6 年
④江里蓮秀

①岩間 心春
②菅谷東小学校
③ 5 年
④鹿志村滴水

①秋田 結愛
②菅谷西小学校
③ 5 年
④鹿志村滴水



①播田實莉子
②友部小学校
③ 6 年
④新堀應秋

①内藤 洋瑠
②内原中学校
③ 1 年
④新堀應秋

①大平 千桜
②友部中学校
③ 1 年
④新堀應秋

①加倉井咲空
②友部中学校
③ 1 年
④新堀應秋

①鈴木 礼乃
②内原中学校
③ 2 年
④新堀應秋

①角間 葉月
②佐野中学校
③ 1 年
④大内祥泉

①白岩 れな
②外野小学校
③ 5 年
④増子竹扇



①田中 未羽
②御船中学校
③ 3 年
④黒岩暘苑

①福嶋 心美
②御船中学校
③ 2 年
④黒岩暘苑

①坂田壮志朗
②御船小学校
③ 6 年
④黒岩暘苑

①井芹 帆希
②甲佐小学校
③ 5 年
④黒岩暘苑

①友部 鳴美
②友部小学校
③ 5 年
④新堀應秋

①中村 心咲
②鯉淵小学校
③ 5 年
④新堀應秋

①竹内 瑞姫
②友部小学校
③ 5 年
④新堀應秋

審査寸評

『条幅創作部』吉澤鐵之評

最近一年、「墨」の講師として仕事をさせて頂き、臨書—倣書—創作への勉強の過程が自分なりに整理出来た様に思います。特に倣書から創作への過程が、今まで説明しきらかたのですが「創作とは倣書に道具などの表現の工夫をもつて感情を注入したものである。」との結論に達しました。もち論、そのには正確な臨書と、その倣書が大切である事は言うまでもありません。

詩の内容は、夷狄との戦いに勝利して凱旋した時の意氣揚々とした心象風景を詠じたものです。迎の印を卯と書いた間違いや、秣の末を未と書いた間違い、堆の土をすと書き違えたものなどが散見されました。

中央の迎のしんにゅうが白眉。焦点のピタリと合った現代作となりました。芸術性の表現しにくい楷書作品を、氏の才腕を以て見応えのあるものにしています。流石の作でした。張猛龍と魏靈巖あたりか?

手慣れた木簡調。見せ場の縛の長い画が冴えている。横斬と左傾に統一された書法。古墨の青墨でそれに情感を入れています。木簡の倣書ながら、かなり自分の個性が出て来ました。印象に近い扁平な篆書。落款の工夫もあって楽しい作品となりました。

自信に満ちた雄渾な作。龍と海あたりが見せ場か。見るからに黒女墓誌銘の倣書。立派です。

工夫に満ちた单体行草。内容が豊かなため、余白が多くても寂しくない。

一席は閔口氏。書き出しは渴筆で始まり、行の散らし構成。その表情は波さと落ち着きに満ち、豊かな線質が際立っています。後半ぐつと行の高さを下げるにより、上部の余白が良くなっています。爽快な線質も魅力です。

妙師範の宮野氏は墨色が美しく、格調高い仕上がり。六行の行間も微芯のある飯束氏は中央の余白が効いた縦構成。一本一本を大切に引き、

『かな条幅隨想部』中村裕美子評

一席は閔口氏。書き出しは渴筆で始まり、行の散らし構成。その表情は波さと落ち着きに満ち、豊かな線質が際立っています。中盤の表文をりてからの中盤部分では、良く筆が開いており、自然な破筆が美しく出ています。二席の金子氏は、前半と後半に大胆な高低差をつけることでメリハリが出ています。後半ぐつと行の高さを下げるにより、上部の余白が良くなっています。爽快な線質も魅力です。

『かな規定半紙特選』中村裕美子評

妙師範の宮野氏は墨色が美しく、格調高い仕上がり。六行の行間も微芯のある飯束氏は中央の余白が効いた縦構成。一本一本を大切に引き、



慶浩
松下 妻
年
②吾妻
③ 6 年
④吉澤太雅

バーコード券に関するお知らせ（当社の瑕疵なく再発行の場合は、全て有料です。）

1、新しく入会して出品券の無い方は、左の「新規・再発行用出品券」に必要事項を記入して、競書作品に添付の上ご出品下さい。（コピー可）次月の『書魁』発送時に新しい出品券を同封いたします。

2、送られたバーコード出品券の記載文字を変更したい場合は、修正部分を赤で記入して下さい。次月の『書魁』発送時に新しい出品券を同封いたします。（有料です。一般部一〇〇円、学生部一〇〇円）（切手代用可）

3、バーコード出品券は、コピーや期限切れのものは違反処理対象となります。

4、『書魁』は、一人一冊購読が原則です。明らかに購読部数と競書出品人数に違いがある場合は、過出品人数分の誌代を後日精算していただきます。

5、紛失などによる、再発行を依頼される場合は、有料となります。（一般部一〇〇円、学生部一〇〇円）（切手代用可）

新規・再発行用出品券（上下を切らず、縦に長いままでご出品下さい。）

全部左 のり		全部左 のり		全部左 のり	
段	級	段	級	段	級
氏名 又は氏号	支部名 又は地名	氏名 又は氏号	支部名 又は地名	氏名 又は氏号	支部名 又は地名
登録方法（○で開む）					
<ul style="list-style-type: none"> ・新規 ・再発行 ・編入 ・再開始 ・学生部から一般部へ 					
発送方法					
支部内配布	個人購読	支部内配布	個人購読	支部内配布	個人購読
支部番号		支部番号		支部番号	
支部名		支部名		支部名	
一般・学生		一般・学生		一般・学生	
小・中 年		小・中 年		小・中 年	
習字・かな・ペン		習字・かな・ペン		習字・かな・ペン	
段	級	段	級	段	級
氏名又は氏号	フリガナ	氏名又は氏号	フリガナ	氏名又は氏号	フリガナ

※必要事項に記入・○をつけて御送信下さい。

※裏面のバーコード出品券をご使用の方は、この連絡表をコピーしてご利用ください。

※各地コンビニエンスストアのコピー機でも送信可能です。

『書魁』FAX(029-248-4019)・郵送用連絡表

1. 書魁誌に関して。

(　　)月号を(　　)冊(増冊・減冊)して、
合計(　　)冊送って下さい。

※増冊は随時受付、減冊は10日まで。

2. 購売部に関して。

ハ. ペン字用箋(1冊100円)を

A. (ワク入り) …… (　　)冊

B. (ワク無し) …… (　　)冊

を送って下さい。

ニ. 「風信」(1冊200円)を

(　　)冊送って下さい。

通信文

住所	〒				送信	年	月	日
姓名				雅号	TEL	(　　)		

3月 書魁社本部 営業予定表

日		月		火		水		木		金		土	
				1	審査	2	審査	3		4	定休日	5	定休日
6	定休日	7		8	定休日	9		10		11	定休日	12	定休日
13	定休日	14		15	定休日	16		17		18	定休日	19	4月号発送
20	定休日	21	祝日	22	定休日	23		24		25	定休日	26	定休日
27	定休日	28		29	定休日	30	〆切	31					

はお休みです。

※事務所の営業は基本的に月・水・木の10時~16時半です(火・金曜日定休日)。
FAXは24時間受け付けております。

一般段以上規定

一般段以上随意

一般級以下規定

一般級以下随意

先怒而失恕而
後教 田 え
吉野山 希望 船 出 月 火
の 桜 朝 の 大 空 い う が
船 三 分 式 入 学 い か
出 入 入 木 入 木

中二三年
小四年中一年
小三年小六年
小二年小五年
小一・幼年

四月号学生ペン字部予告

◆一般部 醉うて疑う月色半林の雪

◆小六生 静に聴く松濤一枕の風
見渡せば柳桜をこきまぜて
都ぞ春の錦なりける

◆小五年

◆小四年

◆小三年

◆小二生

◆小一生

◆小三生

◆小四年

◆小五年

◆小六年

二月発送出席者

會沢伯韻、川崎一葦、倉田朱鷗、佐久間篁石、鈴木靜泉、
牧野美香、吉澤太雅、吉澤鐵之

二月審査会出席者

會沢伯韻、飯村鴻之、鹿志村滴水、金子紫洋、川崎一葦、

倉田朱鷗、佐久間篁石、椎名枝香、篠原挾秋、鈴木靜泉、
高橋鳴沙、中村裕美子、中山雪夢、新堀應秋、平野明子、

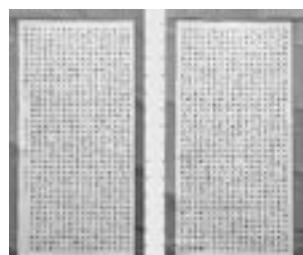
牧野美香、増子竹扇、松浦寅郊、吉澤太雅、吉澤鐵之

◆小一・幼年

◆小一・幼年

さ	あ	ぞ	や	草	花
く	く	こ	し	池	を見
ら	ら	も	で	のほとり	に咲く
ね	が	か	れ	いり	つめ
か	か	かな	ば	する	よう
ん	い	くな	人	みな	身近な
い	い	な	の		

さ	あ	ぞ	や	草	花
く	く	こ	し	池	を見
ら	ら	も	で	のほとり	に咲く
ね	が	か	れ	いり	つめ
か	か	かな	ば	する	よう
ん	い	くな	人	みな	身近な
い	い	な	の		



松本芳翠の作品

右から平尾孤往・赤羽雲庭・
右津金雀仙の作品

○周囲でも、コロナの陽性や濃厚接触者が出るようになつた。他人事の様にテレビのニュースを聞いていた孫たちまでが真摯な表情に思える。

○何故か、コロナ禍の世界になつてから月日の経つのが早いように思つるのは私だけだろうか?

○昨年の暮れ、コロナが収束しかけた頃の幸福感が夢のよう。一月の二十人展の頃から拡散始めたオミクロン株は瞬く間に全国を席巻して、いまだに増え続けている。この三月号発送の頃には、日本書作院展も閉幕しているはず。果たしてどのような状況になっているのか。そして、神様は人類にどのような試練と教訓を与えようとしているのだろうか?

○茨城県近代美術館で開催された第十二回現美展も例年の約半分の入場者に終わつた。コロナ禍ゆえ仕方のない事かと。開催出来ただけでも有難い。

○前述の二十人展や現美展の他、一月の展覧会は数多く、コロナ禍の中でも肅々と開催された。雅誕展、淇水書展、有山社展、仮名の臨池会展、書聖展、日本刻字展、太玄展、正筆書展、回瀬展、書海社展、郁文社展と。回瀬展では久しぶりに平尾孤往、津金雀仙、赤羽雲庭先生の作品に接し、百回記念展の書海社展では憧れの松本芳翠先生の傑作の数々に逢えた。何れもコロナ禍のため来場者は少ないようだつたが、それだけにゆつくり眼福を肥やすことが出来た。作家は、数多くの作品を見て鑑識眼を蓄えることが仕事の一つかです。

入会と誌代規定

◎「書魁」の会員になるには、住所、氏名、号、電

話番号を明記し、誌代半年分四、二〇〇円以上を添えてお申し込みになれば、誰でも会員となれます。(一人一冊購読が原則です)

◆送金の際は必ず、新人継続、何月号より何冊、何円と明記して下さい。

◆前納誌代は、如何なる場合と雖も他に充当又返金致しかねますからお含みおき下さい。

◆誌代切れの時は、雑誌発送の折込通知致しますからすぐ御送金下さい。

◆誌代切れの時点で発送を中止致します。

◆退会や送金の遅れる場合はその旨御一報下さい。

支部規定

◆会員が十名に達しますと、支部を設置する事が出来ます。

◆支部新設の場合、支部長はその支部長所在地、支部名をお知らせ下さい。

◆支部長は、誌代の徵収『書魁』の配布、お清書の発送に責任を持つて下さい。

◆会員の増減は、毎月前月の十日までにお知らせ下さい。振替は到着に一週間かかります。

◆支部において、二ヶ月誌代未納の場合は、送本を中止させて頂きます。

◆支部設立の場合は、書魁社まで詳細支部規定を御請求下さい。支部内の経営については、当本部は一切関与致しません。

賞状請求規定

◆賞印は賞状を差し上げます。希望者は、何月号、何部、何学年、何級、氏名を明記し、

切手(二二〇円)(※五枚までは二二〇円、六枚からは一四〇円)を貼った返信用封筒(B5版、本部賞状係へ御請求下さい。自分の住所、氏名を記入の事)を同封の上、本部賞状係へ御請求下さい。

競書出品上の注意

①毎月三十日必着〆切です。(二・十二月のみ二十八日〆切)

◆規定期定・随意・条幅部・臨書部の段級とは共通です。

◆競書名・ベン字部の段級は漢字部とは別です。

◆競書名には必ず支部名・段級・氏名を記入した所定のバーコード出品券を貼って下さい。

◆新しく出品される方は、「巻末」の新規出品券に必要事項を記入し、級のところに「新人」と書いて下さい。後日正式な出品券をお届けします。

◆暫く休んでいた方は「元の段級で出品して下さい。」

◆「書魁」の級を記入し、脇に赤で「調」と書いて下さい。

◆前月号の級を記入し、脇に赤で「調」と書いて下さい。

◆特殊の大さな双鉤墳墨などで書き、写し書きと分かるものは違反とします。

◆競印は昇級のみとなります。双鉤墳墨など書き、写真版になります。

◆競書は昇級のみとなります。双鉤墳墨など書き、写真版になります。

◆競書に出品された作品は、いかなる場合であっても返却いたしません。

◆競書の送り先



本部への電話・FAX

○事務所は、月・水・木曜日のみ営業です。

尚時間は午前十時から午後四時半までです。

○FAX(〇二九・二四八・四〇一九)は年内無休で受け付けております。

認定証交付規定

◆昇段又は昇級された方、或いは現段級の認定証を左記により交付致します。

○一般部 教範位・師範位 五、〇〇〇円
師範格・準師範以下 二、〇〇〇円
五〇〇〇円

○学生部 五〇〇〇円
月希望の方は、部門別段位、ならびに姓号、昇格

◆送料一枚迄 五〇〇〇円
御希望の方は、月希望の方は、部門別段位、ならびに姓号、昇格

◆個人会員の場合、会費納入期は、
前期(四月号～九月号)
後期(十月号～三月号)

◆一ヶ月 六ヶ月 一年 八ヶ月
七〇〇円(送料共・税込) 二〇〇円(送料共・税込)
四〇〇円(送料共・税込)

◆右の区切れ良く前納下さい。
◆支部の場合、その支部内において納入期に準じて徵収頂くようお願いします。

誌代

氏名

発行所	書魁社	主 発 行 人 幹 事	鐵之吉澤南樹	一ヶ月 六ヶ月 一年 八ヶ月	七〇〇円 二〇〇円 四〇〇円(送料共・税込)
経歴	讀賣書法会常任理事 日本書作院副理事長 全日本漢詩連盟理事 等	日展会員			
振替	茨城県水戸市酒門町一九七三一三 電話〇二九(二四七)八四五六代 FAX〇二九(二四八)四〇一九 振替〇〇三一〇一八三一八七八八				

私たちには「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

